

# 史跡 江臚館跡

鴻臚館跡 20

—南館部分の調査（2）—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1213集

史跡 鴻臚館跡

鴻臚館跡 20

—南館部分の調査（2）— 福岡市埋蔵文化財調査報告書第一二二三集

一一〇一三

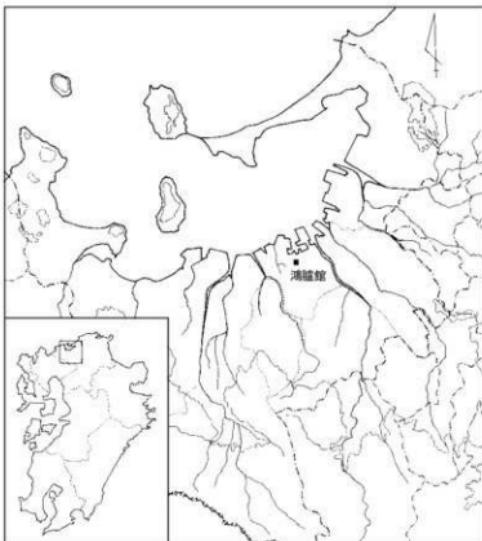
福岡市教育委員会

# 史跡 鴻臚館跡

鴻臚館跡 20

—南館部分の調査 (2) —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1213 集



遺跡略号 KRE-4~7・9・11~13  
遺跡調査番号 8829・8910・9005・9130・  
9236・9420・9537・9620

2013

福岡市教育委員会



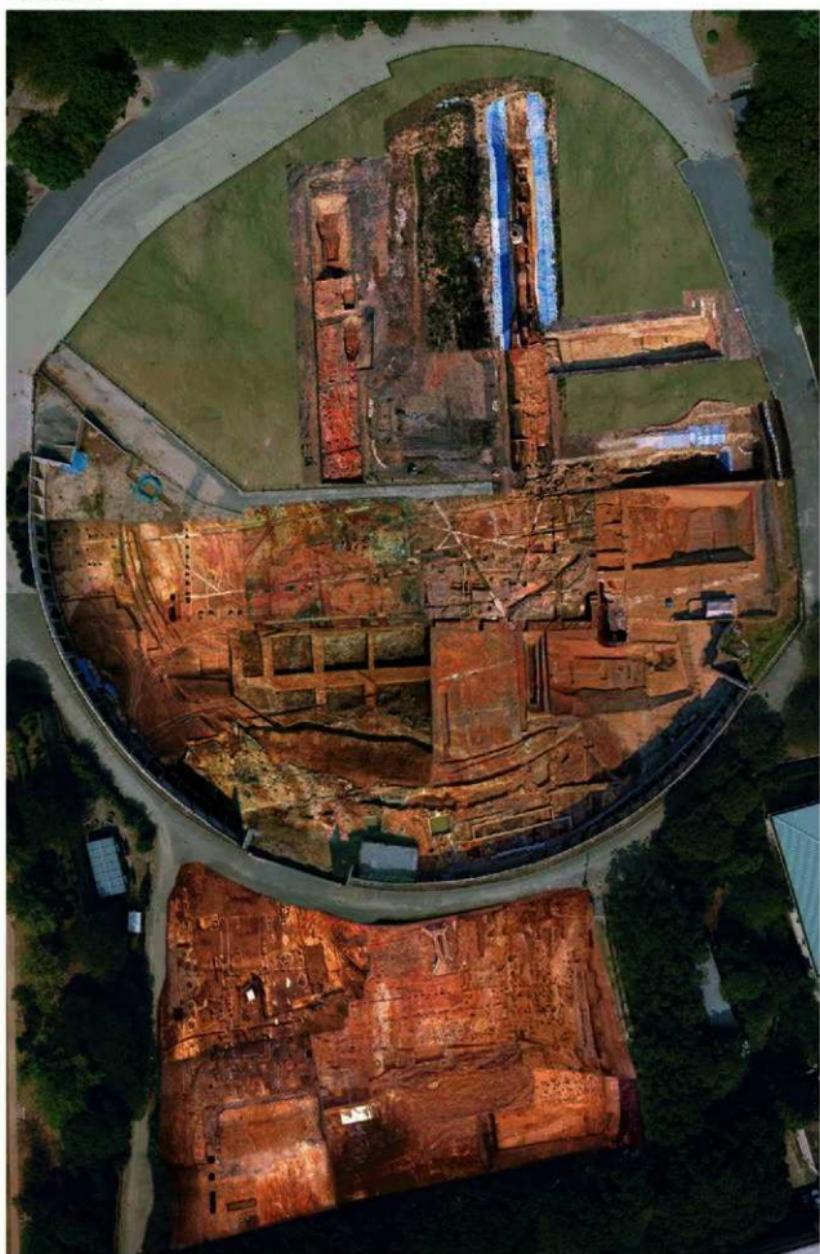


1. 鴻臚館跡と博多湾（南から）



2. 鴻臚館跡遠景（東から）

巻頭図版 2



鴻臚館跡 史跡指定地内調査区全景（デジタル合成）（上方が北）



1.土坑SK38遺物出土状況（南から）



2. SK38出土遺物集合写真

卷頭図版 4



1.土坑SK56調査状況（東から）



2. SK56出土遺物集合写真



1.土坑SK61遺物出土状況（東から）



2. SK61出土遺物集合写真

卷頭図版 6



1.土坑SK75調査状況（南東から）



2. SK75出土遺物集合写真



1.土坑SK80遺物出土状況（南から）



2. SK80出土遺物集合写真

卷頭図版 8



1.土坑SK82遺物出土状況（南から）



2. SK82出土遺物集合写真



1.土坑SK255遺物出土状況（西から）

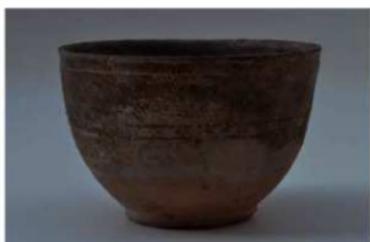


2. SK255出土遺物集合写真

卷頭図版 10



唐三彩陶枕（柱穴出土、Fig.172-1919）



隋代越州窑系青磁碗（SK56、Fig.40-315）



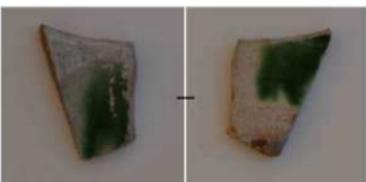
隋代越州窑系青磁碗（SK75、Fig.60-599）



越州窑系青磁莲瓣纹碗（SK147、Fig.25-169）



越州窑系青磁碗（A1群碗5/表探、Fig.178-2093）



中国産白釉緑彩陶器（SK255、Fig.157-1689）



中国産緑釉陶器（SK255、Fig.157-1690）



景德鎮窯白磁小鉢（SK56、Fig.38-283）



景德鎮窯白磁蓮瓣文碗（SK208、Fig.127-1347）



越州窑系青磁鱼文碗（表探、Fig.175-2016）



長沙窯貼花文水注（整地層、  
Fig.182-2166）



長沙窯二彩（SK160、  
Fig.112-1222・1223）



褐釉陶器灯蓋（SK56、Fig.43-391）



褐釉陶器香炉蓋（SK255、Fig.162-1794）



イスラム陶器（SK155・160ほか）



越州窯系青磁碗（SK224、Fig.138-1490/A1群碗1）



越州窯系青磁碗（SK255、Fig.157-1702/A1群碗2）

\*越州窯系青磁の分類は本文190～193頁を参照

卷頭図版 12



越州窯系青磁碗 (SK38、Fig.18-74/A1群碗3)



越州窯系青磁碗 (SK56、891000035/A1群碗4)



越州窯系青磁皿 (SK56、Fig.40-322/A1群皿1)



越州窯系青磁皿 (SK255、Fig.159-1726/A1群皿2)



越州窯系青磁皿 (SK255、Fig.159-1729/A:群皿3)



越州窯系青磁皿 (SK56、Fig.40-323/A:群棱花皿1)



越州窯系青磁坏 (SK56、Fig.40-314/A:群坏1)



越州窯系青磁坏 (SK56、Fig.40-311/A:群坏2)



越州窯系青磁碗 (SK206、900510248/A2群碗1)



越州窯系青磁碗 (SK255、Fig.158-1712/A2群碗2)



越州窯系青磁皿 (SK33、882910156/A2群皿1)



越州窯系青磁碗 (SK208、Fig.128-1379/A2群碗3)



越州窯系青磁皿 (SK36、Fig.13-31/A3群皿1)



越州窯系青磁碗 (SK255、Fig.158-1715/A群碗1)



越州窯系青磁碗 (SK255、Fig.159-1725/A3群碗3)



越州窯系青磁碗 (SK246、Fig.149-1574/B群碗1)



越州窯系青磁碗 (SK246、Fig.149-1583/B群碗2)



越州窯系青磁碗 (SK80、Fig.70-763/B群碗3)

卷頭図版 16



越州窯系青磁碗 (SK80、Fig.69-743/B群碗4)



越州窯系青磁碗 (SK38、Fig.19-92/B群碗6)



越州窯系青磁碗 (SK262、Fig.168-1879/B群碗5)



越州窯系青磁皿 (SK80、891000151/B群皿1)



越州窯系青磁皿 (SK56、Fig.43-380/B群皿1)

\*越州窯系青磁の分類は本文190～193頁を参照

## 序

鴻臚館は、わが国古代の外交施設として、京都の平安京、大阪の難波、福岡の筑紫の3ヶ所に設置されたましたが、その遺構が確認されたのは福岡が唯一です。古くは筑紫館と呼ばれた福岡の鴻臚館は、日本の外交と国際交易にとって重要な役割を果たした施設であったとみられています。

鴻臚館跡は国史跡福岡城跡三の丸に位置しており、福岡市では昭和63年度から城内において鴻臚館跡の範囲確認調査を実施しています。調査により、南北二つの施設からなること、東向きに建てられていたこと、数回にわたり大きく建て替えられていることなどが確認され、文献資料からは知ることのできなかった鴻臚館の具体的な姿が明らかになりました。平成16年には福岡城三の丸の一角が鴻臚館跡として国史跡に指定され、全国的にも例のない国史跡福岡城跡との二重指定となっています。

鴻臚館跡は日本の古代外交史を考える上で重要な史跡であるとともに、市民にとって貴重な歴史遺産であり、歴史公園として整備公開し、福岡城との歴史的重層性などを、分かりやすい形で情報発信していくことが、今後の課題と考えています。

整備にあたっては、鴻臚館跡の持つ本質的価値を分かりやすい形で表現する必要がありますが、具体的な価値の一つに、国際交易によつてもたらされた大量の舶載遺物、なかでも中国などで生産された陶磁器等の出土品があります。本書は、鴻臚館跡南館部分から出土したこれらの遺物についてまとめたもので、中国浙江省や福建省などの中国各地や、朝鮮半島や遠くイスラム圏からもたらされた多種・多様な舶載遺物について報告しています。これらの遺物の多くは火事等によって商品的価値を失つたものがまとめて穴の中に捨てられた状態で出土しており、中にはひとつの穴から100点以上の陶磁器が出土した遺構もあります。これらは鴻臚館の交易の実態やその管理のあり方などについて様々なヒントを与えてくれるものであり、今後ともこのような出土遺物についての分析や資料調査を行い、鴻臚館が担った具体的な役割について解明していくことが、鴻臚館跡の整備と活用にとっての課題であると言えましょう。

調査に際し、「鴻臚館跡調査研究指導委員会」はじめ文化庁、福岡県、財務省福岡財務支局等の関係機関にご協力を頂き、調査や整理を円滑に進めることができましたことを厚くお礼申し上げます。調査に関わられた全ての方々に対し深く感謝申し上げますとともに、この報告書が広く活用され、鴻臚館跡の保存と活用に対する理解を深める一助となることを願います。

平成25年3月22日

福岡市教育委員会

教育長 酒井 龍彦

## 例　言

1. 本書は福岡市教育委員会が行った、国指定史跡 鴻臚館跡の発掘調査本報告書である。
2. 鴻臚館跡の発掘調査報告書は、平成2(1990)年度から継続して刊行しており、本書が20冊めであるが、『鴻臚館跡II』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第315集)、及び『鴻臚館跡18』(同第1022集)、『鴻臚館跡19』(同第1175集)を除き概要報告書である。従って、本書は4冊めの本報告書となる。
3. 本報告書の刊行計画については本文4ページに示した通りである。調査が長期にわたり出土遺物に相当の分量があるため、分割刊行を進めており、遺構の性格により区分した「谷部分」、「南館(仮称)部分」、「北館部分」の順に計画的に刊行を行っている。(鴻臚館跡調査では、谷の北側施設を文献に見える「鴻臚北館」と推定し、相対する南側施設を「南館」と仮称している。)
4. 上記のうち、本書は「南館部分」の第2分冊である。第1分冊である『鴻臚館跡19』では、南館の建物遺構について報告を行った。本書は、南館の建物遺構以外の遺構(主に土坑)のうち、第Ⅰ期・第Ⅲ期調査分についてまとめたものである。次年度には第Ⅳ期調査分の報告を予定しており、次年度で南館部分の古代遺構についての報告を完了する予定である。
5. 史跡鴻臚館跡の発掘調査、及び本書の作成は、国庫補助事業として実施した。
6. 本書に使用した遺構実測図の作製は、各年度の調査担当者、及び調査員・作業員が行った。
7. 本書に使用した遺物実測図の作製は、各年度の調査担当者・山口譲治・田中克子・吉岡涼子が行った。
8. 本書に使用した写真は、各年度の調査担当者が撮影した。
9. 本書に使用した図の製図は山口・池崎謙二・星野恵美・田中・吉岡が行った。
10. 本書に用いた座標系は、平面直角座標系第II座標系(日本測地系)である。図に使用した方位は全て座標北(Y軸)を示し、この地域では真北より $0^{\circ} 19'$ 西偏し、磁北より $6^{\circ} 02'$ 東偏する。
11. 本書の執筆は、吉武学が行い、田中克子の協力を得た。
12. 越州窯系青磁の分類と計測は田中が行った。
13. 瓦の分類は「大宰府史跡出土軒瓦・敲打痕文字瓦型式一覧」九州歴史資料館2000に拠る。
14. 本書の編集は吉武が行った。
15. 本報告書に関する記録と遺物類は、整理後、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵し、ここで管理する。

本書に所収の調査一覧(各調査の詳細は本文3ページを参照)

鴻臚館跡第4～7・9・11～13次調査(福岡城跡 10・13・15・17・20・27・31・35次調査)

|        |   |        |  |
|--------|---|--------|--|
| 遺跡調査番号 | 8829・8910・9005・9130・9236・9420・9537・9620 |        |  |
| 遺跡略号   | KRE(鴻臚館跡)、FUE(福岡城跡)                     |        |  |
| 所在地    | 中央区域内1-1                                | 分布地図番号 | 60-0192                                |
| 調査対象面積 | 48,027m <sup>2</sup> (史跡指定面積)           | 調査面積   | 計5,790m <sup>2</sup> (詳細は本文3頁、Tab.2参照) |
| 調査期間   | (本文 Tab. 2参照)                           |        |  |

## 目 次

|  |     |
|--|-----|
| 第一章 はじめに .....   | 1   |
| 1. 鴻臚館跡の調査の経過 .....  | 1   |
| 2. 調査体制 .....  | 1   |
| 3. 調査計画 .....  | 2   |
| 4. 報告書の刊行計画 .....  | 3   |
| 5. 鴻臚館跡の調査概要 .....   | 3   |
| 第二章 検出遺構と出土遺物 .....  | 6   |
| 1. 検出遺構と出土遺物の概要 .....  | 6   |
| 2. 第4次調査の検出遺構と出土遺物 .....   | 7   |
| SK23・SK24・SK27・SK36・SK37・SK38・SK40・<br>SK135・SK147・148   |     |
| 3. 第5次調査の検出遺構と出土遺物 .....   | 27  |
| SK53・SK54・SK55・SK56・SK59・SK60・SK61・<br>SK62・SK66・SK72・SK73・SK74・SK75・SK76・<br>SK78・SK79・SK81・SK80・SK82・SK83・SK84・<br>SK85・SK86・SK87・SK89・SK90・SK91・SK92・<br>SK93・SK94・SK95・SK96・SK97・SK98・SK99・<br>SK 100・SK 103・SK 104・SK 107・SK 105・SK 119 |     |
| 4. 第6次調査の検出遺構と出土遺物 .....   | 95  |
| SK 151・SK 152・SK 155・SK 159・SK 160・SK 207・<br>SK 208・SK 211・SK 224・SK 229・SK 239   |     |
| 5. 第7次調査の検出遺構と出土遺物 .....   | 138 |
| SK 243・SK 245・SK 246・SK 249・SK 250・SK 251・<br>SK 254・SD 252・SK 255・SK 261・SK 262   |     |
| 6. 第9次調査の検出遺構と出土遺物 .....   | 168 |
| SK 356・SK 362・SK 363・SK 368  |     |
| 7. その他の出土遺物 .....  | 171 |
| 8. 南館（第Ⅰ・Ⅲ期調査）における一括廃棄土坑出土の越州窯系青磁の分類と計測表 .....   | 190 |
| 第三章 おわりに .....   | 200 |

## 挿図目次

|  |        |
|--|--------|
| Fig. 1 国史跡鴻臚館跡の位置と周辺遺跡分布図 (1/200,000)          | 1      |
| Fig. 2 鴻臚館跡発掘調査計画図 (平成 25 年 3 月現在)             | 2      |
| Fig. 3 検出遺構配置図 (1/500)                         | (折り込み) |
| Fig. 4 鴻臚館跡の建物遺構の概略図 (1/1,500)                 | 5      |
| Fig. 5 本書に掲載した遺構の配置図 (1/500)                   | 6      |
| Fig. 6 土坑SK23実測図 (1/40)                        | 7      |
| Fig. 7 SK23出土遺物実測図 (1 ~ 10 は 1/3、他は 1/4)       | 8      |
| Fig. 8 土坑SK24実測図 (1/20)                        | 9      |
| Fig. 9 SK24出土遺物実測図 (21 は 1/4、他は 1/3)           | 9      |
| Fig.10 土坑SK27実測図 (1/20)                        | 10     |
| Fig.11 SK27出土遺物実測図 (24 は 1/4、他は 1/3)           | 11     |
| Fig.12 土坑SK36実測図 (1/20)                        | 11     |
| Fig.13 SK36出土遺物実測図 (35・36 は 1/4、他は 1/3)        | 12     |
| Fig.14 土坑SK37実測図 (1/40)                        | 13     |
| Fig.15 SK37出土遺物実測図 1 (1/3)                     | 14     |
| Fig.16 SK37出土遺物実測図 2 (1/4)                     | 15     |
| Fig.17 土坑SK38実測図 (1/20)                        | 16     |
| Fig.18 SK38出土遺物実測図 1 (1/3)                     | 17     |
| Fig.19 SK38出土遺物実測図 2 (90 ~ 98 は 1/3、他は 1/4)    | 18     |
| Fig.20 土坑SK40実測図 (1/40)                        | 19     |
| Fig.21 SK40出土遺物実測図 (103 ~ 117 は 1/3、他は 1/4)    | 20     |
| Fig.22 土坑SK135実測図 (1/40)                       | 21     |
| Fig.23 SK135出土遺物実測図 (1/3)                      | 21     |
| Fig.24 土坑SK147・148実測図 (1/40)                   | 22     |
| Fig.25 SK147出土遺物実測図 1 (1/3)                    | 23     |
| Fig.26 SK147出土遺物実測図 2 (170 ~ 179 は 1/3、他は 1/4) | 24     |
| Fig.27 SK148出土遺物実測図 1 (1/3)                    | 25     |
| Fig.28 SK148出土遺物実測図 2 (216 ~ 217 は 1/3、他は 1/4) | 26     |
| Fig.29 土坑SK53実測図 (1/40)                        | 27     |
| Fig.30 SK53出土遺物実測図 1 (220 ~ 224 は 1/3、他は 1/4)  | 28     |
| Fig.31 SK53出土遺物実測図 2 (1/4)                     | 29     |
| Fig.32 土坑SK54実測図 (1/40)                        | 30     |
| Fig.33 SK54出土遺物実測図 1 (249 は 1/4、他は 1/3)        | 31     |
| Fig.34 SK54出土遺物実測図 2 (1/4)                     | 32     |
| Fig.35 土坑SK55実測図 (1/40)                        | 33     |
| Fig.36 SK55出土遺物実測図 1 (1/3)                     | 33     |
| Fig.37 土坑SK56実測図 (1/40)                        | 34     |
| Fig.38 SK56出土遺物実測図 1 (1/3)                     | 36     |

|        |   |    |
|--------|---|----|
| Fig.39 | SK56出土遺物実測図 2 (1/3) .....   | 37 |
| Fig.40 | SK56出土遺物実測図 3 (1/3) .....   | 38 |
| Fig.41 | SK56出土遺物実測図 4 (1/3) .....   | 39 |
| Fig.42 | SK56出土遺物実測図 5 (1/3) .....   | 40 |
| Fig.43 | SK56出土遺物実測図 6 (1/3) .....   | 41 |
| Fig.44 | SK56出土遺物実測図 7 (1/3) .....   | 42 |
| Fig.45 | SK56出土遺物実測図 8 (423 は 1/1、424 ~ 434 は 1/2、422 は 1/3、他は 1/4) .....  | 43 |
| Fig.46 | 土坑SK59・60実測図 (1/40) .....   | 44 |
| Fig.47 | SK59出土遺物実測図 (450 は 1/2、449 は 1/4、他は 1/3) .....                    | 45 |
| Fig.48 | 土坑SK61実測図 (遺物出土状況図は 1/20、他は 1/40) .....                           | 46 |
| Fig.49 | SK61出土遺物実測図 1 (1/3) .....   | 47 |
| Fig.50 | SK61出土遺物実測図 2 (1/3) .....   | 48 |
| Fig.51 | SK61出土遺物実測図 3 (1/3) .....   | 49 |
| Fig.52 | SK61出土遺物実測図 4 (523・524 は 1/1、525 ~ 527 は 1/2、他は 1/4) .....        | 50 |
| Fig.53 | 土坑SK62実測図 (1/40) .....  | 51 |
| Fig.54 | SK62出土遺物実測図 1 (1/3) .....   | 52 |
| Fig.55 | SK62出土遺物実測図 2 (559 は 1/2、他は 1/4) .....                            | 53 |
| Fig.56 | 土坑SK66実測図 (1/20) .....  | 54 |
| Fig.57 | 土坑SK72・73・74実測図 (1/40) .....                                      | 55 |
| Fig.58 | SK 66・72・73・74 出土遺物実測図 (562・569 は 1/2、565・568 は 1/4、他は 1/3) ..... | 55 |
| Fig.59 | 土坑SK75実測図 (1/40) .....  | 57 |
| Fig.60 | SK75出土遺物実測図 1 (1/3) .....   | 58 |
| Fig.61 | SK75出土遺物実測図 2 (1/3) .....   | 59 |
| Fig.62 | SK75出土遺物実測図 3 (1/3) .....   | 60 |
| Fig.63 | SK75出土遺物実測図 4 (1/3) .....   | 61 |
| Fig.64 | SK75出土遺物実測図 5 (1/3) .....   | 62 |
| Fig.65 | SK75出土遺物実測図 6 (716 ~ 718 は 1/2、他は 1/4) .....                      | 63 |
| Fig.66 | 土坑SK76・78・79・81実測図 (1/40) .....                                   | 65 |
| Fig.67 | SK76・78・81出土遺物実測図 (720 ~ 722 は 1/3、他は 1/4) .....                  | 66 |
| Fig.68 | 土坑SK80実測図 (1/20) .....  | 67 |
| Fig.69 | SK80出土遺物実測図 1 (1/3) .....   | 68 |
| Fig.70 | SK80出土遺物実測図 2 (1/3) .....   | 69 |
| Fig.71 | SK80出土遺物実測図 3 (783 は 1/4、他は 1/3) .....                            | 70 |
| Fig.72 | 土坑SK82実測図 (1/20) .....  | 71 |
| Fig.73 | 土坑SK82土層断面実測図 (1/20) .....  | 72 |
| Fig.74 | SK82出土遺物実測図 1 (1/3) .....   | 73 |
| Fig.75 | SK82出土遺物実測図 2 (1/3) .....   | 74 |
| Fig.76 | SK82出土遺物実測図 3 (1/3) .....   | 75 |
| Fig.77 | SK82出土遺物実測図 4 (844 は 1/2、他は 1/4) .....                            | 76 |
| Fig.78 | 土坑SK83・84・85・86・87・89・90実測図 (1/40) .....                          | 77 |

|         |  |     |
|---------|--|-----|
| Fig.79  | SK84・85出土遺物実測図（845～864は1/3、他は1/4）                | 78  |
| Fig.80  | SK87・89・90出土遺物実測図（887は1/4、他は1/3）                 | 80  |
| Fig.81  | 土坑SK91・92・93・94・98実測図（1/40）                      | 82  |
| Fig.82  | SK91・92・93・94出土遺物実測図（902は1/1、他は1/3）              | 83  |
| Fig.83  | 土坑SK95・96実測図（1/20）                               | 84  |
| Fig.84  | SK95出土遺物実測図（1/4）                                 | 85  |
| Fig.85  | 土坑SK97実測図（1/20）                                  | 85  |
| Fig.86  | SK97出土遺物実測図（1/3）                                 | 85  |
| Fig.87  | 土坑SK99実測図（1/40）                                  | 86  |
| Fig.88  | SK99出土遺物実測図（1/3）                                 | 86  |
| Fig.89  | 土坑SK100実測図（1/40）                                 | 86  |
| Fig.90  | SK100出土遺物実測図1（1/3）                               | 87  |
| Fig.91  | SK100出土遺物実測図2（1/3）                               | 88  |
| Fig.92  | SK100出土遺物実測図3（951は1/4、他は1/3）                     | 89  |
| Fig.93  | 土坑SK103・104・107実測図（1/40）                         | 91  |
| Fig.94  | SK103・104出土遺物実測図（955・956・966・967は1/4、他は1/3）      | 92  |
| Fig.95  | 土坑SK105実測図（1/20）                                 | 93  |
| Fig.96  | SK105出土遺物実測図（974は1/4、他は1/3）                      | 94  |
| Fig.97  | 土坑SK119実測図（1/40）                                 | 95  |
| Fig.98  | SK119出土遺物実測図（1/3）                                | 95  |
| Fig.99  | 土坑SK151・152実測図（1/40）                             | 96  |
| Fig.100 | SK151出土遺物実測図1（1/3）                               | 97  |
| Fig.101 | SK151出土遺物実測図2（1012～1014は1/4、1015・1016は1/2、他は1/3） | 98  |
| Fig.102 | SK152出土遺物実測図（1/3）                                | 99  |
| Fig.103 | 土坑SK155実測図（1/40）                                 | 100 |
| Fig.104 | SK155出土遺物実測図（1/3）                                | 100 |
| Fig.105 | 土坑SK159・160実測図（1/40）                             | 102 |
| Fig.106 | 土坑SK159・160断面・土層断面実測図（1/40）                      | 103 |
| Fig.107 | SK159出土遺物実測図1（1/3）                               | 104 |
| Fig.108 | SK159出土遺物実測図2（1/4）                               | 105 |
| Fig.109 | SK160出土遺物実測図1（1/3）                               | 106 |
| Fig.110 | SK160出土遺物実測図2（1/3）                               | 107 |
| Fig.111 | SK160出土遺物実測図3（1/3）                               | 108 |
| Fig.112 | SK160出土遺物実測図4（1/3）                               | 109 |
| Fig.113 | SK160出土遺物実測図5（1224～1242は1/3、1243は1/2、他は1/4）      | 110 |
| Fig.114 | SK160出土遺物実測図6（1/4）                               | 111 |
| Fig.115 | SK160出土遺物実測図7（1/4）                               | 112 |
| Fig.116 | SK160出土遺物実測図8（1/4）                               | 113 |
| Fig.117 | SK160出土遺物実測図9（1/4）                               | 114 |
| Fig.118 | SK160出土遺物実測図10（1/4）                              | 115 |

|  |     |
|--|-----|
| Fig.119 SK160出土遺物実測図 11 (1/4) .....                                  | 116 |
| Fig.120 SK160出土遺物実測図 12 (1/4) .....                                  | 117 |
| Fig.121 SK160出土遺物実測図 13 (1/4) .....                                  | 118 |
| Fig.122 SK160出土遺物実測図 14 (1/4) .....                                  | 119 |
| Fig.123 土坑SK207実測図 (1/40).....                                       | 120 |
| Fig.124 SK207出土遺物実測図 1 (1300 ~ 1314 は 1/3、他は 1/4).....               | 121 |
| Fig.125 SK207出土遺物実測図 2 (1/4).....                                    | 122 |
| Fig.126 土坑SK208実測図 (1/40).....                                       | 123 |
| Fig.127 SK208出土遺物実測図 1 (1/3).....                                    | 125 |
| Fig.128 SK208出土遺物実測図 2 (1/3).....                                    | 126 |
| Fig.129 SK208出土遺物実測図 3 (1/3).....                                    | 127 |
| Fig.130 SK208出土遺物実測図 4 (1/3).....                                    | 128 |
| Fig.131 SK208出土遺物実測図 5 (1434 は 1/3、他は 1/4).....                      | 129 |
| Fig.132 SK208出土遺物実測図 6 (1/4).....                                    | 130 |
| Fig.133 SK208出土遺物実測図 7 (1/4).....                                    | 131 |
| Fig.134 SK208出土遺物実測図 8 (1454 ~ 1466 は 1/4、1467 は 1/2、他は 1/3).....    | 132 |
| Fig.135 土坑SK211実測図 (1/40).....                                       | 133 |
| Fig.136 SK211出土遺物実測図 (1474 ~ 1483 は 1/3、他は 1/4).....                 | 133 |
| Fig.137 土坑SK224実測図 (1/40).....                                       | 134 |
| Fig.138 SK224出土遺物実測図 (1/3).....                                      | 134 |
| Fig.139 土坑SK229実測図 (1/40).....                                       | 135 |
| Fig.140 SK229出土遺物実測図 (1499 ~ 1521 は 1/3、他は 1/4).....                 | 136 |
| Fig.141 土坑SK239実測図 (1/40).....                                       | 137 |
| Fig.142 SK239出土遺物実測図 (1/3) .....                                     | 137 |
| Fig.143 土坑SK243実測図 (1/40).....                                       | 138 |
| Fig.144 SK243出土遺物実測図 1 (1/3).....                                    | 139 |
| Fig.145 SK243出土遺物実測図 2 (1/4).....                                    | 140 |
| Fig.146 SK243出土遺物実測図 3 (1/4).....                                    | 141 |
| Fig.147 SK243出土遺物実測図 4 (1561・1562 は 1/1、他は 1/4).....                 | 142 |
| Fig.148 土坑SK245・249・250実測図 (1/40).....                               | 144 |
| Fig.149 土坑SK246出土遺物実測図 1 (1/3).....                                  | 145 |
| Fig.150 土坑SK246出土遺物実測図 2、SK249 出土遺物実測図 (1594・1595 は 1/4、他は 1/3)..... | 146 |
| Fig.151 土坑SK251・254、構状遺構SD252実測図 (1/40).....                         | 147 |
| Fig.152 SK251出土遺物実測図 (1/3) .....                                     | 148 |
| Fig.153 SD252出土遺物実測図 (1637 は 1/4、他は 1/3).....                        | 149 |
| Fig.154 SK254出土遺物実測図 (1642 は 1/4、他は 1/3).....                        | 150 |
| Fig.155 土坑SK255・261実測図 (1/40) .....                                  | 151 |
| Fig.156 SK255出土遺物実測図 1 (1/3).....                                    | 152 |
| Fig.157 SK255出土遺物実測図 2 (1/3).....                                    | 153 |
| Fig.158 SK255出土遺物実測図 3 (1/3).....                                    | 154 |

|  |     |
|--|-----|
| Fig.159 SK255出土遺物実測図 4 (1/3) .....                     | 155 |
| Fig.160 SK255出土遺物実測図 5 (1/3) .....                     | 156 |
| Fig.161 SK255出土遺物実測図 6 (1/3) .....                     | 157 |
| Fig.162 SK255出土遺物実測図 7 (1/3) .....                     | 158 |
| Fig.163 SK255出土遺物実測図 8 (1804 ~ 1817は1/3、他は1/4) .....   | 159 |
| Fig.164 SK255出土遺物実測図 9 (1831は1/3、他は1/4) .....          | 160 |
| Fig.165 SK261出土遺物実測図 (1846は1/4、他は1/3) .....            | 162 |
| Fig.166 土坑SK262・356・362・363・368実測図 (1/40) .....        | 164 |
| Fig.167 SK262出土遺物実測図 1 (1/3) .....                     | 165 |
| Fig.168 SK262出土遺物実測図 2 (1/3) .....                     | 166 |
| Fig.169 SK262出土遺物実測図 3 (1/4) .....                     | 167 |
| Fig.170 SK356・362出土遺物実測図 (1898は1/4、他は1/3) .....        | 169 |
| Fig.171 SK363・368出土遺物実測図 (1906・1907は1/4、他は1/3) .....   | 170 |
| Fig.172 その他の出土遺物 土器1 (1/3) .....                       | 172 |
| Fig.173 その他の出土遺物 土器2 (1/3) .....                       | 173 |
| Fig.174 その他の出土遺物 土器3 (1/3) .....                       | 174 |
| Fig.175 その他の出土遺物 土器4 (1/3) .....                       | 175 |
| Fig.176 その他の出土遺物 土器5 (1/3) .....                       | 176 |
| Fig.177 その他の出土遺物 土器6 (1/3) .....                       | 177 |
| Fig.178 その他の出土遺物 土器7 (1/3) .....                       | 178 |
| Fig.179 その他の出土遺物 土器8 (1/3) .....                       | 179 |
| Fig.180 その他の出土遺物 土器9 (1/3) .....                       | 180 |
| Fig.181 その他の出土遺物 土器10 (2153は1/4、他は1/3) .....           | 181 |
| Fig.182 その他の出土遺物 土器11 (1/3) .....                      | 182 |
| Fig.183 その他の出土遺物 土器12 (1/3) .....                      | 183 |
| Fig.184 その他の出土遺物 土器13 (1/3) .....                      | 184 |
| Fig.185 その他の出土遺物 瓦1 (1/4) .....                        | 186 |
| Fig.186 その他の出土遺物 瓦2 (1/4) .....                        | 187 |
| Fig.187 その他の出土遺物 銅製品・ガラス製品・鉄製品 (2249は1/1、他は1/2) .....  | 188 |
| Fig.188 その他の出土遺物 石製品・土製品 (2253 ~ 2272は1/3、他は1/4) ..... | 189 |
| Fig.189 越州窯系青磁分類図 1 (1/4) .....                        | 192 |
| Fig.190 越州窯系青磁分類図 2 (1/4) .....                        | 193 |

## 図版目次

- 卷頭図版1 1. 鴻臚館跡と博多湾（南から） 2. 鴻臚館跡遠景（東から）  
卷頭図版2 鴻臚館跡 史跡指定地内調査区全景（デジタル合成）  
卷頭図版3 1. 土坑SK38 遺物出土状況（南から） 2. SK38 出土遺物集合写真  
卷頭図版4 1. 土坑SK56 調査状況（東から） 2. SK56 出土遺物集合写真  
卷頭図版5 1. 土坑SK61 遺物出土状況（東から） 2. SK61 出土遺物集合写真  
卷頭図版6 1. 土坑SK75 調査状況（南東から） 2. SK75 出土遺物集合写真  
卷頭図版7 1. 土坑SK80 遺物出土状況（南から） 2. SK80 出土遺物集合写真  
卷頭図版8 1. 土坑SK82 遺物出土状況（南から） 2. SK82 出土遺物集合写真  
卷頭図版9 1. 土坑SK255 遺物出土状況（西から） 2. SK255 出土遺物集合写真  
卷頭図版10 出土遺物1  
卷頭図版11 出土遺物2  
卷頭図版12 出土遺物3  
卷頭図版13 出土遺物4  
卷頭図版14 出土遺物5  
卷頭図版15 出土遺物6  
卷頭図版16 出土遺物7

### 巻末図版

- PL. 1 1. 福岡城跡と鴻臚館跡（東から）  
PL. 2 1. 土坑SK37（東から）  
PL. 3 1. 土坑SK56完掘状況（北から）  
    3. 土坑SK56遺物出土状況  
    5. 土坑SK56馬齒出土状況  
PL. 4 1. 土坑SK59遺物出土状況（南から）  
PL. 5 1. 土坑SK61遺物出土状況（南から）  
    3. 土坑SK61完掘状況（北から）  
PL. 6 1. 土坑SK62完掘状況（北から）  
PL. 7 1. 土坑SK75土層断面（南東から）  
    3. 土坑SK75土層断面（南から）  
    5. 土坑SK75馬齒出土状況  
PL. 8 1. 土坑SK80周辺（東から）  
    3. 土坑SK80遺物出土状況（東から）  
PL. 9 1. 土坑SK82遺物出土状況（東から）  
PL. 10 1. 土坑SK82土層断面（南から）  
    3. 土坑SK82遺物出土状況（南から）  
    5. 土坑SK82遺物出土状況（南西から）  
    7. 土坑SK82遺物出土状況（西から）  
    2. 鴻臚館跡遠景（南から）  
    2. 土坑SK55（西から）  
    2. 土坑SK56遺物出土状況  
    4. 土坑SK56馬齒等出土状況  
    2. 土坑SK60遺物出土状況（西から）  
    2. 土坑SK61遺物出土状況（西から）  
    2. 土坑SK66遺物出土状況（南東から）  
    2. 土坑SK75土層断面（南西から）  
    4. 土坑SK75炭化物出土状況（西から）  
    2. 土坑SK80遺物出土状況（北東から）  
    2. 土坑SK82遺物出土状況（南から）  
    2. 土坑SK82遺物出土状況（南西から）  
    4. 土坑SK82遺物出土状況（北東から）  
    6. 土坑SK82遺物出土状況（北東から）  
    8. 土坑SK82遺物出土状況（南西から）

|        |   |  |
|--------|---|--|
| PL..11 | 1. 土坑SK 91・98（北から）<br>3. 土坑SK 100 馬齒出土状況                                    | 2. 土坑SK91遺物出土状況（北東から）  |
| PL..12 | 1. 土坑SK 103・104・107（南から）  | 2. 土坑SK 105 遺物出土状況（南から）  |
| PL..13 | 1. 土坑SK 160 遺物出土状況（東から）   | 2. 土坑SK 159・160 土層断面（東から）  |
| PL..14 | 1. 土坑SK 160 遺物出土状況（西から）<br>3. 土坑SK 160 イスラム陶器出土状況<br>5. 土坑SK 160 イスラム陶器出土状況 | 2. 土坑SK 160 イスラム陶器出土状況<br>4. 土坑SK 160 イスラム陶器出土状況<br>6. 土坑SK 155 イスラム陶器出土状況 |
| PL..15 | 1. 土坑SK 207 遺物出土状況（北から）   | 2. 土坑SK 208 土層断面（南から）  |
| PL..16 | 1. 土坑SK 239 土層断面（南から）   | 2. 土坑SK 246 遺物出土状況   |
| PL..17 | 1. 土坑SK 243 遺物出土状況（北から）   | 2. 土坑SK 368 遺物出土状況（東から）  |
| PL..18 | 1. 土坑SK 255 遺物出土状況（北から）   | 2. 土坑SK 255 石鍋出土状況   |
| PL..19 | 出土遺物 1  |  |
| PL..20 | 出土遺物 2  |  |
| PL..21 | 出土遺物 3  |  |
| PL..22 | 出土遺物 4  |  |
| PL..23 | 出土遺物 5  |  |
| PL..24 | 出土遺物 6  |  |
| PL..25 | 出土遺物 7  |  |
| PL..26 | 出土遺物 8  |  |

## 表目次

|        |                                   |         |
|--------|-----------------------------------|---------|
| Tab. 1 | 調査計画表（平成 25 年3月現在）                | 2       |
| Tab. 2 | 鴻臚館跡調査一覧（平成 25 年3月現在）             | 3       |
| Tab. 3 | 鴻臚館跡関係調査報告書一覧                     | 4       |
| Tab. 4 | 鴻臚館跡調査報告書刊行計画                     | 4       |
| Tab. 5 | 鴻臚館跡検出遺構の時期区分（案）                  | 5       |
| Tab. 6 | 越州窯系青磁型式分類表                       | 190～191 |
| Tab. 7 | SK38 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：8829）       | 194     |
| Tab. 8 | SK56 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：8910）       | 195     |
| Tab. 9 | SK61 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：8910）       | 196     |
| Tab.10 | SK82 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：8910）       | 196     |
| Tab.11 | SK75 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：8910）       | 197     |
| Tab.12 | SK80 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：8910）       | 198     |
| Tab.13 | SK246 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：9130）      | 199     |
| Tab.14 | SK255 出土越州窯系青磁一覧表（調査番号：9130・9236） | 199     |

# 第一章 はじめに

## 1. 鴻臚館跡の調査の経過

福岡市では、昭和 62 年度に鴻臚館跡の遺構が確認されたことを受け、翌年度から鴻臚館跡の発掘調査を進めている。調査に際し、学識経験者等からなる「鴻臚館跡調査研究指導委員会」を設置して指導・助言を受け、また文化庁や福岡県とも協議を行いながら事業を進めている。平成 16 年度に鴻臚館跡が国史跡の指定を受けたことに伴い、平成 18 年度には「調査計画」を策定している。平成 24 年度現在は、中期計画の第 V 期調査である平和台野球場跡地北半の調査を、平成 25 年度までを目途として実施しており、今後は史跡指定地外の遺構確認調査の継続とともに、発掘調査が終了した史跡指定部分の環境整備にどのように取り組んでいくかが課題である。

## 2. 調査体制

平成 23 年度までの調査体制については『鴻臚館跡 18・19』を参照されたい。本書の作成にかかる平成 24 年度の組織体制については、以下の通りである。

調査主体 福岡市教育委員会

調査総括 文化財部長 藤尾 浩

大規模史跡整備推進課長 田中壽夫

調査担当 大規模史跡整備推進課鴻臚館跡整備係長 吉武 学

大規模史跡整備推進課専門調査員 山口謙治、池崎謙二

調査庶務 大規模史跡整備推進課福岡城跡整備係 真子嘉透

なお文化財部は、組織改編のため平成 24 年 4 月 1 日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。



### 3. 調査計画 Tab. 1, Fig. 2

平成5年度に「鴻臚館跡調査研究指導委員会」の指導・助言のもと鴻臚館跡発掘調査中期計画が策定され、福岡城跡三ノ丸地区を対象とした5地点を調査対象地とし各5年程度の調査を実施すること、昭和63年度から実施していた調査区を第Ⅰ期調査区とすること等が定められた。以後の発掘調査はこの計画に則って実施しており、計画期間については実情にあわせてその都度見直している。また、平成18年度に定めた『鴻臚館跡調査計画書』は、国史跡である鴻臚館跡の「保存管理計画」に代わるものとの位置付けであり、上記指導委員会に諮り、文化庁と協議して策定した。計画書においては、①中期調査計画と地区区分を改めて設定、②鴻臚館跡指定地外でも計画的調査を進め、遺構が確認された場合は追加指定を前提とする、③史跡福岡城跡と重複するため、まず福岡城遺構の確認調査を行って内容・性格を検討し、調査の目的と必要性を勘案し、福岡城遺構を破壊しないことを大前提としながら、遺構の掘削が避けられない場合は必要かつ最小限に留めるとともに、十分な検討を行って調査方法を定めることを主な趣旨とする。

Tab.1 調査計画表（アミ部は調査終了）

平成25年3月現在

| 長期計画 | 調査対象地        | 調査面積                          | 実施及び計画期間   | 調査目的                             |
|------|--------------|-------------------------------|------------|----------------------------------|
| 第Ⅰ期  | 平和台野球場南側     | 4,585 m <sup>2</sup>          | 昭和63～平成4年度 | 鴻臚館跡の遺構の有無と範囲の確認                 |
| 第Ⅱ期  | 舞鶴公園西広場      | 1,400 m <sup>2</sup>          | 平成5～6年度    | 鴻臚館跡の範囲確認、及び福岡城基底時旧地形の復元と薄土層の確認  |
| 第Ⅲ期  | 平和台野球場南側土塁跡  | 2,114 m <sup>2</sup>          | 平成7～10年度   | 平和台野球場南側土塁下の遺構確認、平和台野球場全体工事立会・試掘 |
| 第Ⅳ期  | 野球場跡南半分      | 15,095 m <sup>2</sup>         | 平成11～17年度  | 鴻臚館跡の史跡指定に向けての範囲確認、鴻臚館時代の地形復元    |
| 第Ⅴ期  | 野球場跡北半分      | 対象面積<br>16,000 m <sup>2</sup> | 平成18～25年度  | 鴻臚館北側の構造確認と北側汀線の確認、外郭施設の検出       |
| 第Ⅵ期  | 舞鶴球技場とその周辺   | 対象面積<br>12,000 m <sup>2</sup> | 平成26～30年度  | 鴻臚館客船部分（第Ⅰ期～第Ⅴ期調査区）に隣接する諸施設の確認   |
| 第Ⅶ期  | 福岡高等裁判所とその周辺 | 対象面積<br>12,000 m <sup>2</sup> | 平成31～39年度  | 鴻臚館中島館の可能性が指摘されており、その確認          |

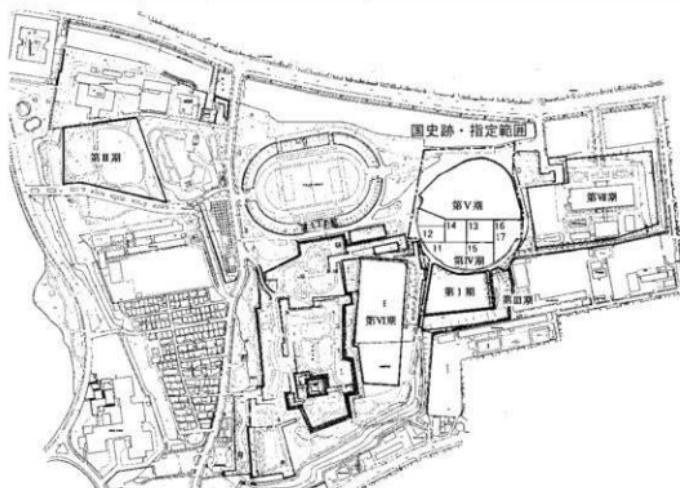


Fig.2 鴻臚館跡発掘調査計画図(平成25年3月現在)

Tab.2 鴻臚館跡調査一覧

※アミは本書に関係する調査

平成25年3月現在

| 年度   | 調査番号 | 鴻臚館跡調査次数 | 福岡城跡調査次数 | 調査地       | 調査原因     | 調査面積  | 調査期間            | 調査担当者      |
|------|------|----------|----------|-----------|----------|-------|-----------------|------------|
| S.26 | 5102 | 1        |          | 三の丸中央部    | デニスクート建設 |       | 5108(3日間)       | 九州文化総合研究所  |
| S.38 | 6301 | 2        | 1        | 三の丸東郭     | 裁判所建設    | 596   | 631007 ~ 631105 | 福岡県教育委員会   |
| S.62 | 8747 | 3        | 9        | 三の丸中央部    | 野球場改修    | 650   | 871225 ~ 880120 | 山崎純男・吉武学   |
| S.63 | 8829 | 4        | 10       | 三の丸中央部    | 範囲確認     | 856   | 880727 ~ 881210 | 山崎純男・吉武学   |
| H.1  | 8910 | 5        | 13       | 三の丸中央部    | 範囲確認     | 1,200 | 890420 ~ 891207 | 山崎純男・吉武学   |
| H.2  | 9005 | 6        | 15       | 三の丸中央部    | 範囲確認     | 1,300 | 900409 ~ 910131 | 山崎純男・吉武学   |
| H.3  | 9130 | 7        | 17       | 三の丸中央部    | 範囲確認     | 1,000 | 910501 ~ 920331 | 山崎純男・瀬本正志  |
| H.4  | 9218 | 8        | 19       | 三の丸中央部    | 範囲確認     | 1,670 | 920615 ~ 921030 | 山崎純男・瀬本正志  |
|      | 9236 | 9        | 20       | 三の丸中央部    | 範囲確認     | 430   | 920910 ~ 930331 | 山崎純男・瀬本正志  |
| H.5  | 9326 | 10       | 22       | 三の丸西郭     | 範囲確認     | 450   | 930816 ~ 940228 | 田中壽夫・瀬本正志  |
|      | 9420 | 11       | 27       | 三の丸中央部    | 史跡整備     | 50    | 940606 ~ 940731 | 田中壽夫・瀬本正志  |
| H.6  | 9432 | 11       | 28       | 三の丸西郭     | 範囲確認     | 850   | 940801 ~ 950320 | 田中壽夫・瀬本正志  |
| H.7  | 9463 | 11       | 30       | 三の丸東郭土塁   | 範囲確認     | 60    | 950201 ~ 950217 | 田中壽夫・瀬本正志  |
| H.7  | 9537 | 12       | 31       | 三の丸西郭・中央部 | 範囲確認     | 300   | 951101 ~ 960329 | 田中壽夫       |
| H.8  | 9620 | 13       | 35       | 三の丸中央郭    | 範囲確認     | 450   | 960704 ~ 961204 | 田中壽夫       |
| H.9  | 9736 | 14       | 39       | 三の丸中央郭    | 範囲確認     | 204   | 970818 ~ 980131 | 田中壽夫       |
| H.10 | 9807 | 15       | 41       | 野球場解体     | 公園整備     | 230   | 980410 ~ 980416 | 田中壽夫・池崎謙二  |
|      | 9831 | 16       | 42       | 野球場跡全体    | 試掘       | 930   | 980922 ~ 990120 | 塙屋勝利・池崎謙二  |
| H.11 | 9910 | 17       | 43       | 野球場跡南半    | 範囲確認     | 3,500 | 990422 ~ 000315 | 塙屋勝利・池崎謙二  |
| H.12 | 0008 | 18       | 44       | 野球場跡南半    | 範囲確認     | 1,750 | 000425 ~ 010316 | 塙屋勝利・池崎謙二  |
| H.13 | 0109 | 19       | 47       | 野球場跡南半    | 範囲確認     | 2,000 | 010521 ~ 020329 | 折尾, 学・池崎謙二 |
| H.14 | 0218 | 20       | 49       | 野球場跡南半    | 範囲確認     | 1,200 | 020513 ~ 030331 | 折尾, 学・大庭康時 |
| H.15 | 0309 | 21       | 50       | 野球場跡南半    | 範囲確認     | 2,425 | 030506 ~ 040331 | 折尾, 学・大庭康時 |
| H.16 | 0415 | 22       | 51       | 野球場跡南半    | 範囲確認     | 2,110 | 040401 ~ 050331 | 折尾, 学・大庭康時 |
| H.17 | 0502 | 23       | 52       | 野球場跡南半    | 範囲確認     | 2,110 | 050404 ~ 060331 | 横山光雄・大庭康時  |
| H.18 | 0617 | 24       | 57       | 野球場跡北半    | 範囲確認     | 820   | 060401 ~ 070331 | 大庭康時・中村博太郎 |
| H.19 | 0706 | 25       | 59       | 野球場跡北半    | 範囲確認     | 504   | 070401 ~ 080331 | 吉武学・中村博太郎  |
| H.20 | 0821 | 26       | 60       | 野球場跡北半    | 範囲確認     | 860   | 080701 ~ 090331 | 吉武学・中村博太郎  |
| H.21 | 0906 | 27       | 61       | 野球場跡北半    | 範囲確認     | 900   | 090401 ~ 100331 | 吉武学・中村博太郎  |
| H.22 | 1013 | 28       | 62       | 野球場跡北半    | 範囲確認     | 970   | 100602 ~ 110331 | 吉武学・久住猛雄   |
| H.23 | 1116 | 29       | 65       | 野球場跡北半    | 範囲確認     | 500   | 110601 ~ 111222 | 常松幹雄・吉武学   |
| H.24 | 1205 | 30       | 69       | 野球場跡北半    | 範囲確認     |       | 120417 ~ 130329 | 吉武学        |

## 4. 報告書の刊行計画 Tab. 3・4

鴻臚館跡の範囲確認調査については、平成2（1990）年度から概要報告書を刊行してきたが、指導委員会や文化庁等から正式報告書の早期刊行が求められていた。鴻臚館跡の史跡整備と活用を行うためにも、検出遺構と出土遺物の詳細な検討、及び総括を行う正式報告書が不可欠である。鴻臚館跡では発掘調査により、自然地形を利用した谷（堀）を挟んで南北に相似形の施設があったことが判明し、北の施設を文献に見える「鴻臚北館」と推定し、相対する南の施設を「南館」と仮称している。発掘調査は「南館」が先行して平成15年度に終了、「谷（堀）」部分は平成17年度に終了、「北館」については平成25年度を目処に終了予定である。よって、調査が終了した谷部分・南館部分の整理・報告を先行し、北館の整理・報告は発掘調査終了後に行うものとして、平成20年度に『鴻臚館跡18~谷（堀）部分の調査-』、平成23年度に『鴻臚館跡19~南館部分の調査(I)-』を刊行した。

## 5. 鴻臚館跡の調査概要 Tab. 5, Fig.3・4

これまでの調査で確認した鴻臚館関連遺構は5期に区分している。その年代観はTab. 5に示した通りであるが、暫定的なものであり、今後正式報告書をまとめて行く中で検討を加えて詳細時期を確定させていく必要がある。各時期の遺構の概要については次の通りである。

Tab.3 鴻臚館跡関係調査報告書一覧

| No. | 発行         | 報告書名                        | 刊行年度                 |
|-----|------------|-----------------------------|----------------------|
| 1   | 福岡県教育委員会   | 「史跡福岡城発掘調査概報」               | 福岡県文化財調査報告書第34集 1964 |
| 2   | 高野恵郎       | 『平和台の考古史料』                  | 福岡市第101集 1972        |
| 3   | 福岡市教育委員会   | 「福岡城址—内壁下盤石積の調査—」           | 福岡市第101集 1983        |
| 4   | 池崎謙一・森本朝子  | 「福岡市立歴史資料館所蔵の高野コレクション」      | 福岡市第101集 1983        |
| 5   | 弓場知記       | 「出土光美銀鏡の高野コレクション」           | 福岡市第101集 1983        |
| 6   | 田崎博之・矢野佳代子 | 「九州大学考古学研究室所蔵の平和台出土遺物」      | 福岡市第101集 1983        |
| 7   | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡I 発掘調査概報」              | 福岡市第270集 1991        |
| 8   | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡II」                    | 福岡市第315集 1992        |
| 9   | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡III」                   | 福岡市第355集 1993        |
| 10  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡IV 平成4年度発掘調査概要報告」      | 福岡市第372集 1994        |
| 11  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡V 平成5年度発掘調査概報」         | 福岡市第416集 1995        |
| 12  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡VI 平成6年度発掘調査概要報告」      | 福岡市第486集 1996        |
| 13  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡VII—鴻臚館跡第1期整備報告—」      | 福岡市第487集 1996        |
| 14  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡VIII—平成7・8年度発掘調査概要報告—」 | 福岡市第545集 1997        |
| 15  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡IX 平成9年度発掘調査概要報告」      | 福岡市第586集 1998        |
| 16  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡X 平成10年度発掘調査概要報告」      | 福岡市第620集 1999        |
| 17  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XI 平成11年度発掘調査報告」       | 福岡市第695集 2001        |
| 18  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XII 平成12年度発掘調査報告」      | 福岡市第733集 2002        |
| 19  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XIII 平成13年度発掘調査報告」     | 福岡市第745集 2003        |
| 20  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XIV」                   | 福岡市第783集 2004        |
| 21  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XV 平成14年度発掘調査報告書」      | 福岡市第838集 2005        |
| 22  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XVI 平成15年度発掘調査報告書」     | 福岡市第875集 2006        |
| 23  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XVII 平成16・17年度発掘調査報告書」 | 福岡市第968集 2007        |
| 24  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XVIII 谷（堀）部分の調査」       | 福岡市第1022集 2009       |
| 25  | 福岡市教育委員会   | 「鴻臚館跡XIX 南館部分の調査(1)」        | 福岡市第1175集 2012       |
| 26  | 福岡市        | 「鴻臚館跡XX 南館部分の調査(2)」         | 福岡市第1213集 (本書) 2013  |

(福岡市第…集は、福岡市埋蔵文化財調査報告書第…集の略)

Tab.4 鴻臚館跡調査報告書刊行計画

| 区分 | 平成 25年3月現在 |       |      |      |      |       |       |       |      |       |
|----|------------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|------|-------|
|    | 年度         | 2008  | 2009 | 2010 | 2011 | 2012  | 2013  | 2014  | 2015 | 2016  |
| 谷  | ←          | 報告書18 | →    |      |      |       |       |       |      |       |
| 南館 | ←          |       |      |      |      | 報告書19 | 報告書20 | 報告書21 | →    |       |
| 北館 | ←          |       |      |      |      |       |       |       |      | 報告書22 |

第Ⅰ期（7世紀後半）には掘立柱建物が営まれる。南館ではL字形に配された南北棟2棟・東西棟2棟と、その内側に礎石建物の可能性のある1棟を確認した。北館では「ロ」字形に開む柱列とその内部の南北棟1棟を確認した。柱列の東辺に門及び門外に付属する柱穴があり、南～南東には柱列と平行する石垣造構が伴う。第Ⅰ期では、南館と北館の建物主軸や構成が全く異なる。

第Ⅱ期（8世紀前半）には、布振り掘立柱列（堀）が設けられる。柱芯間で東西約74m、南北約56mの東西に長い長方形区画の堀で、東門が付く。区画内に建物柱穴は確認できず、礎石が削平で失われたと推測される。第Ⅱ期は南北の施設が同一主軸、同一規模の相似形をなす。この他、南館区画内の南西隅に掘り込み地業があり、南館と北館の南西区画外には3基と2基のトイレ造構がある。トイレ造構は第Ⅱ期のみ存在する。第Ⅱ期に先立つ埋立てで谷幅は狭くなり、北館側には高さ4.2mの石垣を築く。また、谷の最奥部を陸橋により切り離して池とし、陸橋北側にも池を設ける。

第Ⅲ期（8世紀後半～9世紀前半）には大型礎石建物が設けられる。削平のため造構の残りが悪いが、南館の南西部で平行する南北棟2棟と直交する東西棟1棟、北館の南東部で東西棟1棟を確認した。南館南側では門基壇と推定される地山整形を検出したが、一部の確認に留めるため不明確である。

IV期以後の建物造構は確認できないが、廃棄土坑の出土遺物からIV期（9世紀後半～10世紀前半）とV期（10世紀後半～11世紀前半）に時期区分している。IV期の廃棄土壇がⅢ期礎石建物基壇を切っており、Ⅲ期の下限を示す。また南館北東部ではV期の区画溝を確認した。出土瓦には10世紀代の特徴を示すものが多く、瓦葺き建物が存続していたことは間違いない。

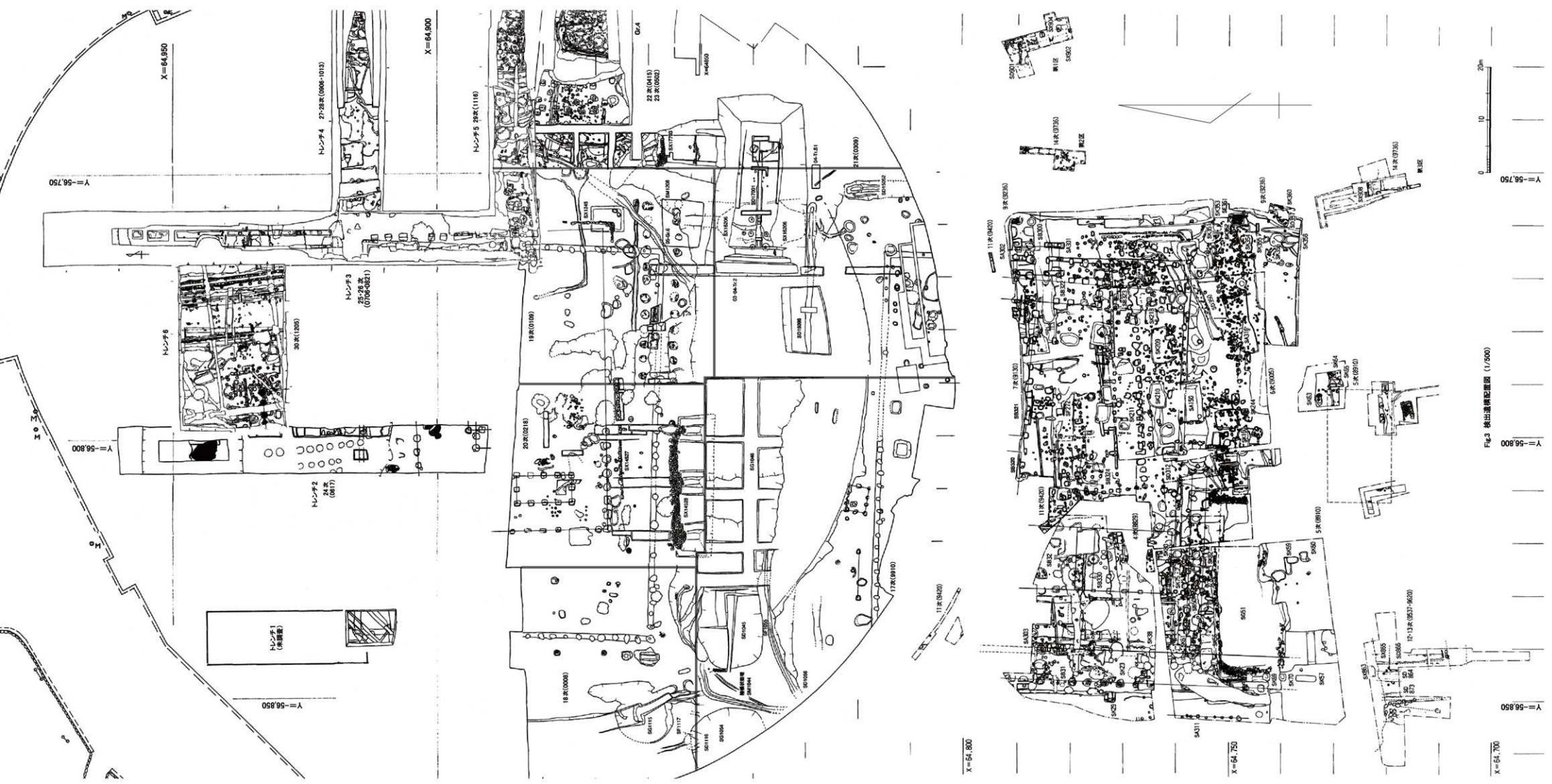




Fig.4 鴻臚館跡の建物遺構の概略図 (1/1,500)

Tab.5 鴻臚館跡検出遺構の時期区分(案)

| 時期  | 区画 | 主な遺構   | 年代記           | 時期比定の根拠・問題点   |
|-----|----|--|---------------|---|
| I   | 南  | 礎立柱建物  | 不明            | 主軸方向から施も古く位置づけ。   |
|     | 北  | 土留め石垣1   | 7世紀後半～        | 石垣内から7世紀後半の須恵器が出土することから、直後の7世紀後半古墳と推定。                                      |
|     | 東  | 礎立柱建物1、柱列1   | 不明            | 主軸方向が石垣に向いため第1期と比定。第1期遺構に先行する遺構か。   |
| Ⅱ期前 | 中央 | 大規模な整地、土留め石垣など   | 1期との前衛か不明。    | 邊りとも施も古くまでに複数回の整地を行って、施も古く。盛土には土を含む。  |
|     | 南  | 右翼附壁+東門1、幅込み地蔵1、トイ-3                                       | 8世紀前半         | 遺構方向から、施の前衛と比定。一方道構出土遺物から時期比定。布留り・地業から地盤堅固丸柱出土。                             |
|     | 北  | 布留り式遺構   |               | 遺構の形状、方位、出土遺物から比定。  |
| Ⅱ   | 中央 | 池2、建物、幅+石垣、土槽（瓦罐裏）   | 8世紀前半～後半の早い段階 | 石槽を復元した付近の出土遺物より、8世紀後半の早い段階に石槽を復元したと推定した。土槽は直面土上に取り付けられた。                   |
|     | 北  | 布留り解+東門1、トイ-2  | 8世紀前半～中期      | 施構に付ける敷用層から前半～中期の須恵器出土。布留り柱抜き穴から白磁（8世紀後半以降）と推定。施構の半周の施が出土し、南北対称で施設した可能性がある。 |
|     | 南  | 建物3、梵鐘跡遺構  | 8世紀後半～9世紀前半   | 施構の半周から代の遺物が出土し、後半の土坑が施構に重複する。建石抜き穴から舟形器出土。（建石建物の下に建石抜き穴）や灰張跡が見つかることで施構を復元。 |
| Ⅲ   | 中央 | 南門   | 9世紀？          | 調査範囲が狭く確認を欠く。   |
|     | 北  | 建石建物1  | 8世紀後半～9世紀前半   | 土槽は土塗を切る。   |
|     | 南  | 土塗のみ   | 9世紀後半～10世紀前半  | 土塗が4.5mが出土しており、施構の存在を示す。  |
| IV  | 中央 | 建物、幅、池   |               |   |
|     | 北  | 土塗のみ   |               |   |
|     | 南  | 北側を区画する池2、土塙   | 10世紀後半～11世紀前半 |   |
| V   | 中央 | 建物、幅、木樁  |               | 施の北斜面に11世紀代の瓦が多いこと、終末期には建物が北に移設か。   |
|     | 北  | 土塙   |               |   |
|     | 南  | 中央部の基礎底高さ約1mと通路（SF-272）、壁剣（SA-273・316）、基礎の役割を持つ斜面（SM-1037） |               |   |
| 不詳  | 北  | 島屋東側の東外に築立柱建物2（主軸方向からみてⅤ～Ⅵ期に分）                             |               |   |

## 第二章 検出遺構と出土遺物

### 1. 検出遺構と出土遺物の概要 Fig. 5

前年度の『鴻臚館跡19-南館部分の調査(1)』では、古代の柱列、塀、掘立柱建物、礎石建物、トイレ遺構、区画に関わるとみられる溝状遺構や地形、地下地業、柱穴、礎石据付穴などを報告した。本書では、上記を除く南館部分の遺構のうち、第Ⅰ期・第Ⅲ期調査で確認したものについて報告する。内容的には、土坑を主とする遺構とその出土遺物、及び古代遺構以外の遺構や整地層などから出土した遺物のうち、特に留意すべきものである。しかしながら、出土遺物総量がコンテナ箱にして約3,500箱に達し、特に遺物の大半を占める瓦類については整理が充分でないため次年度以降に補足する予定である。

本書では以下の調査について報告する。鴻臚館跡第〇次(福岡城跡〇次・調査番号)で表記する。

第Ⅰ期調査：4次(10次・8829)、5次(13次・8910)、6次(15次・9005)、7次(17次・9130)、  
9次(20次・9236)。補足調査として第Ⅰ期整備に伴う調査：11次(27次・9420)。

第Ⅲ期調査：12次(31次・9537)、13次(35次・9620)。

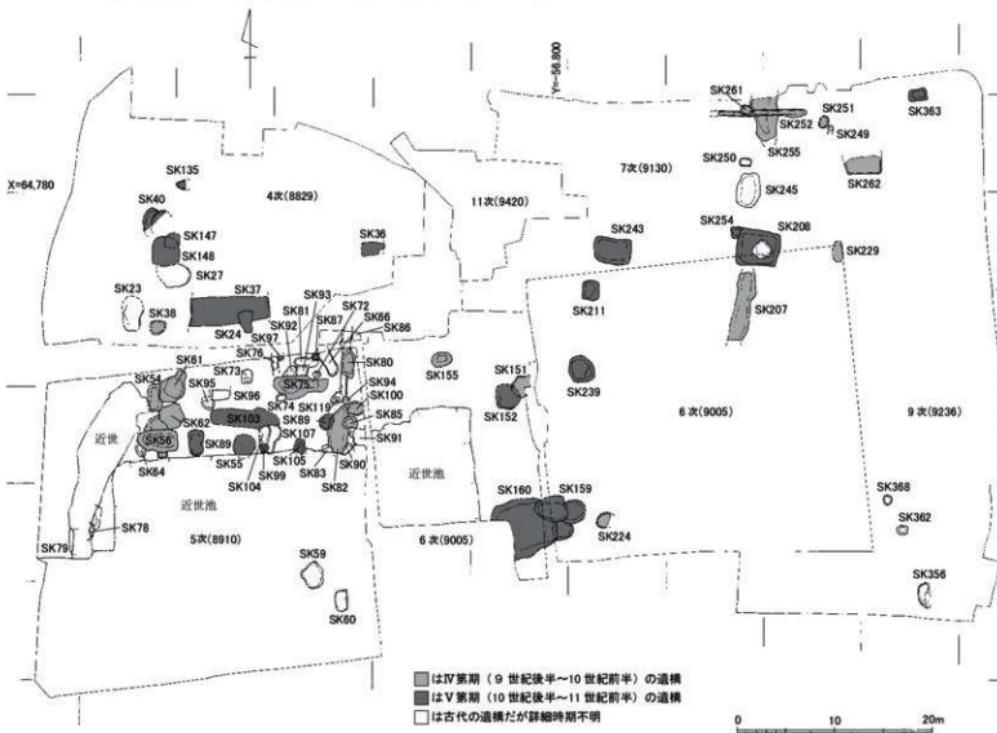


Fig.5 本書に掲載した遺構の配置図(1/500)

## 2. 第4次調査の検出遺構と出土遺物(福岡城跡第10次調査/8829)

第4次調査で検出した古代の遺構としては、布掘り塙や地下地業、2棟の礎石建物、多数の土坑等がある。うち、前年度に報告が終了した建物関係遺構以外のものとしては、土坑18基がある。第4次調査区は、現在「鴻臚館跡展示館」として遺構の露出展示を行っており、建物遺構等の保存のため、完掘した遺構が少なく、また、遺物についても出土したままの状態で展示するために取り上げていないものが大半である。よって、報告できる遺構としては、土坑10基である。

### 土坑SK23 Fig.6

第4次調査区の南西部に検出した土坑である。北側は水道管理設溝による破壊を受け、南側は近世ピット等による破壊が著しい。不整な楕円形プランを呈するともられ、南北長2.3m以上、東西長2.2mを測る。断面形は浅皿状をなし、深さ10cm前後の深い土坑である。

出土遺物は少なく、廃棄物の処理のための土坑と考えられる。

### SK23出土遺物 Fig.7

土師器、須恵器、中国産陶磁器(邢窯系白磁、越州窯系青磁、陶器)、朝鮮半島産陶器が少量、瓦がコンテナ11箱出土した。

1は邢窯系白磁碗で、外底は露胎である。2~7は越州窯系青磁である。2~5は碗で、2は全釉で豊付けの釉を剥ぎ取る。3~4は外底が露胎で内外底に目跡・白土目が残る。6は坏で釉下に白化粧を施し、外底露胎。内外底に目跡がある。7は広口壺で一対の耳が付く。8は福建省産無釉陶器の捏ね鉢である。

9~10は朝鮮半島産無釉陶器の甕の胴部小片。

11は軒丸瓦で082A型式。12~13は鴻臚館式軒平瓦(635型式)である。14も軒平瓦で662型式。15は素文磚の残欠である。16は土錘である。

土器類の出土量は少ない。詳細時期は不明である。

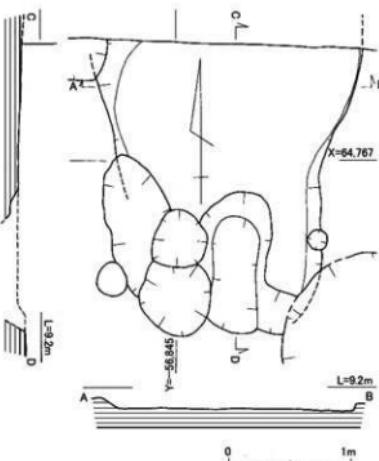


Fig.6 土坑SK23実測図(1/40)

### 土坑SK24 Fig.8

第4次調査区南端の中央部、礎石建物SB31とSB330の間に掘り込まれた大規模な瓦溜りSK37が埋設した後に、その中に切り込まれた瓦溜りである。SK37が焼土混入の埋土であるのに対し、SK24の埋土が黒色粘質土であるため、その判別は容易であった。平面形は南北に長い不整な楕円形プランをなし、南北2.05m、東西1.2m、深さ25cmを測る。断面形が浅い皿状をなす窪みで、底面には凹凸がある。埋土には多量の瓦のほか、土師器など若干の土器類、鉄製品、鉄塊などを含む。

### SK24出土遺物 Fig.9

土師器、須恵器、中国産陶磁器(景德鎮窯白磁、越州窯系青磁、陶器)、朝鮮半島産陶器、瓦質土

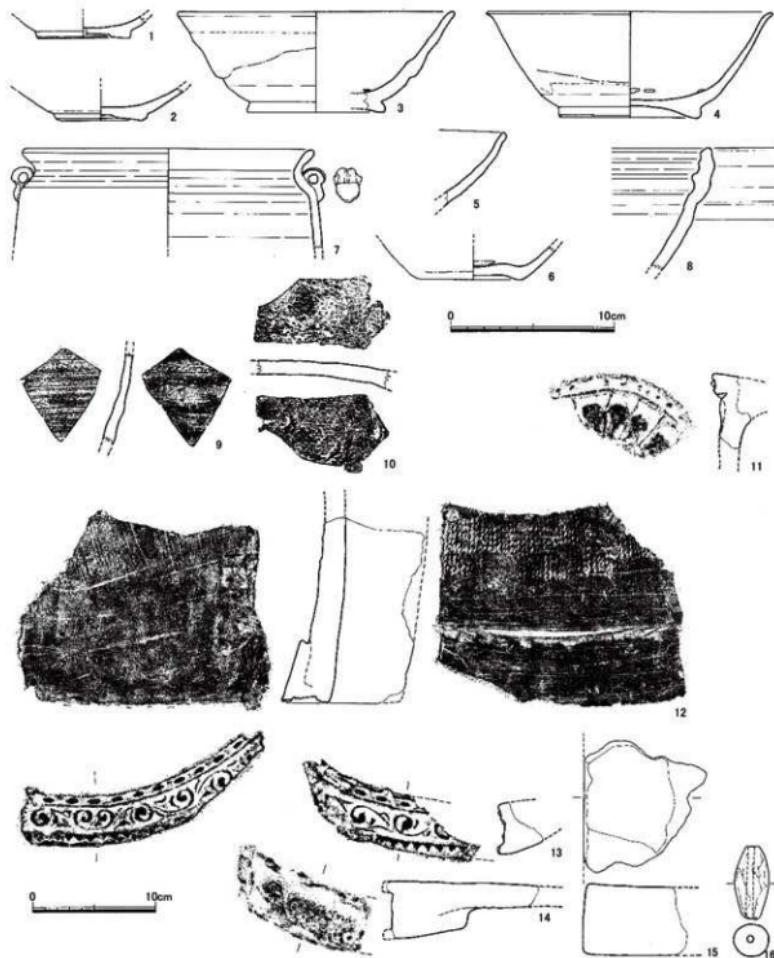


Fig.7 SK23出土遺物実測図 (1~10は1/3、他は1/4)

器、近世陶磁器が少量、瓦がコンテナ3箱出土した。

17は土師器坏で、底部ヘラ切りで板压痕が付く。口径11.0cm、器高2.0cm。

18は景德鎮窯白磁皿で、輪花口縁。体外面下半は露胎である。19は越州窯系青磁碗で、蛇の目高台。全軸で豊付縁辺部の軸を剥ぎ取る。20は越州窯系青磁の壺類で、全軸。豊付の軸を剥ぎ取る。

21は大宰府式の鬼瓦である。ほぼ全面ナデ調整。胎土は石英粒等を含み粗く、焼成良好である。

SK37を切る遺構であることから、この土坑は第V期(10世紀後半~11世紀)のものとみられる。

土坑 SK27 Fig.10

第4次調査区の南西部、SK23の北東約4mに位置する大きな瓦溜りである。南館第III期礎石建物SB31の基壇東縁に重複しており、SB31の礎石据付穴、雨落ち溝、基壇石積みなどがこの土坑により破壊されている。北側は擾乱坑に切られる。遺構実測図に示したとおり、東西約4.0m、南北2.3mの不整な楕円形の範囲に多量の瓦が含まれている瓦溜りであるが、西端部分の瓦については西に接する別の瓦溜り(SK39)に属するものであると考えられ、SK27自体は東西約3m、南北2.3mの不整な楕円形プランをなすものとみられる。なお、SK39は礎石建物基壇の展示のため一部を除き未調査である。SK27についても遺物の大半は取り上げておらず、平成25年現在は遺構覆屋施設である『鴻臚館跡展示館』内で出土状況の露出展示を行っている。従って土坑の深さは不明である。土坑内には多量の瓦類が廃棄され、一部中

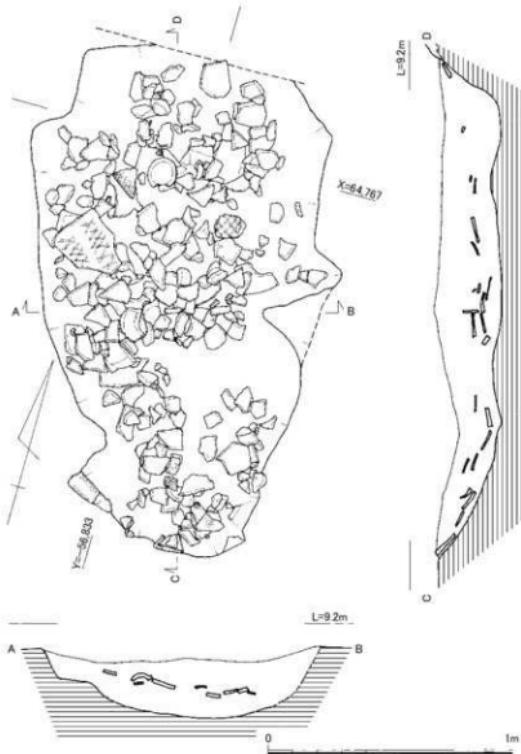


Fig.8 土坑SK24実測図(1/20)

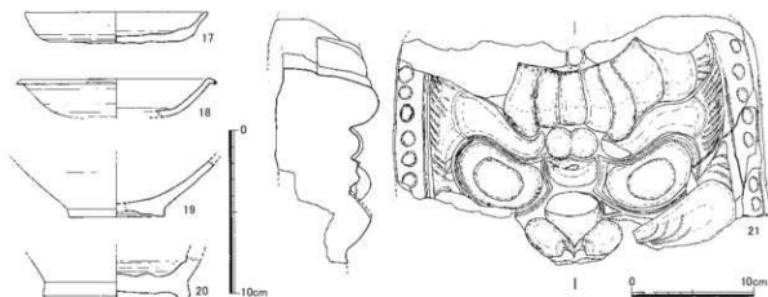


Fig.9 SK24出土遺物実測図(21は1/4、他は1/3)

国産青磁が混在する。瓦の間に樹木の根が潜り込んでいるが、遺構保存のためそのままにしている。瓦の叩き目は綱目が少なく、斜格子目叩き目が多い傾向にある。また埋土に焼土が混在していないので、



Fig.10 土坑SK27 実測図 (1/20)

SK37とは時期が異なるものと  
考えられる。

#### S K 2 7 出土遺物 Fig.11

土師器、須恵器、中国産  
陶磁器(白磁片、越州窯系  
青磁、陶器)、朝鮮半島産陶  
器、近世陶磁器、瓦がコンテナ4箱ある。遺物はほとんど取り上げていない。

22・23は朝鮮半島産無釉陶器の小片である。22は軟質で、外面に小さな格子目叩き後、小さな台形  
突帯を貼付する。23は内外面とも平行叩き。24は土錐である。遺構の詳細時期は不明である。



Fig.11 SK27出土遺物実測図 (24は1/4、他は1/3)

#### 土坑 S K 3 6 Fig.12

第4次調査区東端付近に検出した。北側は近世土坑SK33に切られ、南側は近代の擾乱溝に破壊され  
ている。また、南館第III期礎石建物SB330の礎石据付穴を覆う整地土の上面で確認していることから、礎  
石建物より新しい時期の瓦溜りである。また、整地土との境が不明瞭で、プランは不明確である。現状で  
南北1.4m、東西2.7の範囲に多量の瓦類が散布する。遺物の大半は取り上げておらず、現在は遺構復  
元施設である『鴻臚館跡展示館』内で露出展示を行っている。従って遺構の深さは不明である。

#### S K 3 6 出土遺物 Fig.13

土師器、中国産陶磁器(邢窯系白磁・越州窯系青磁)が少量、瓦がコンテナ4箱出土した。遺物の大半

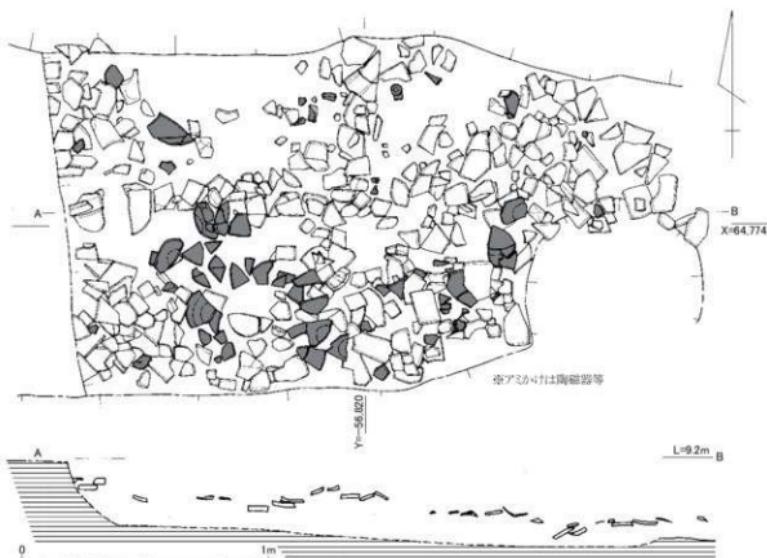


Fig.12 土坑 SK36 実測図 (1/20)

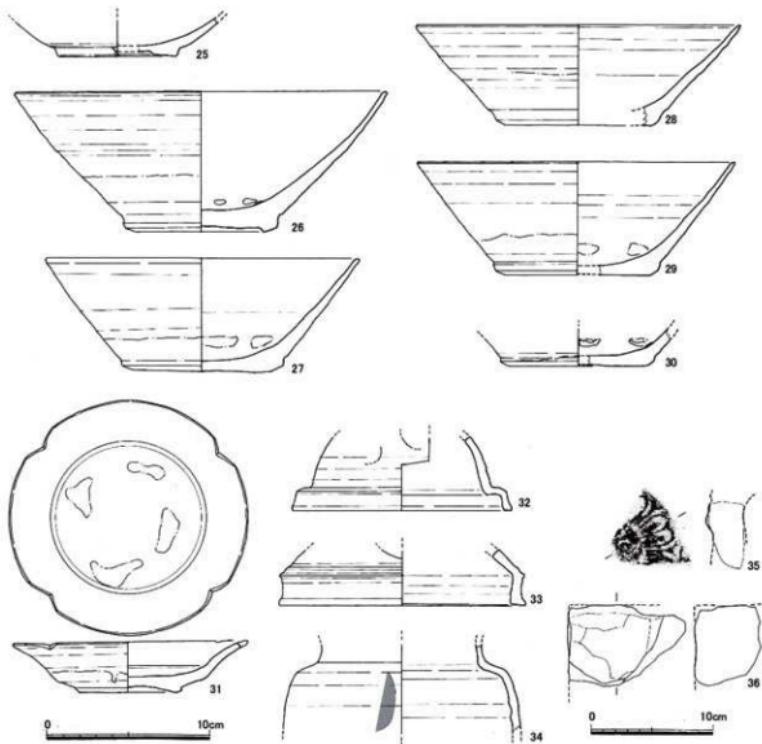


Fig.13 SK36出土遺物実測図(35・36は1/4、他は1/3)

は取り上げていない。

25は邢窯系白磁碗である。蛇の目高台で、高台脇に施釉時に使用したと思われる鉗子痕が残る。釉下に白化粧を施している可能性が強く、全釉で疊付の釉を剥ぐ。26～34は越州窯系青磁である。26～30は碗で、いずれも体部外面下端から外底は露胎とする。26のみ低い高台を削り出している。28は不明確だが、他はいずれも内外底に目跡または白土目が付く。28～30は露胎部分が赤変する。31は皿で、四輪花口縁、低い円盤状高台で、高台端を面取りする。体外面下半から外底は露胎で、内底の4箇所に目跡がある。32・33は蓋で、天井部に透孔がある。ともに全釉で、32は受け部内面に目跡があり、33は口唇部の釉を掻き取っている。34は粗製の壺で、内外面に施釉する。剥離しているが、おそらく肩部外面に褐彩を施したものとみられる。

35は軒丸瓦の極小片である。複弁蓮華文の花弁であり、鴻臚館式(223型式)か。36は素文磚の残欠である。

32・33など北宋前期の陶磁器が出土しており、第V期(10世紀後半～11世紀前半)の遺構であろう。

**土坑SK37 Fig.14, PL.2**

第4次調査区の南壁際中央部分に位置する。礎石建物SB31とSB330の間に掘り込まれた大規模な瓦溜りで、東西両端は礎石建物の雨落ち溝にそれぞれ接する。北側を擾乱溝に切られ、南側は調査区外に伸びておらず、また遺構保存のため一部は未調査であり、遺構の全体プランは不明である。現状で東西6.8m、南北3m以上を測る。深さは5cm前後と極めて浅い。底面には大小の浅い窪みが認められるが、SK37に伴うか否か不明。覆土は粘質土で焼土が混入しており、遺構の埋没後にSK24が掘り込まれており、これより古い遺構である。

**SK37出土遺物 Fig.15-16, PL.19**

土師器、須恵器、中国産陶磁器（越州窯系・長沙窯系青磁、陶器）、朝鮮半島産陶器、近世陶磁器がコンテナ1箱、瓦が同じく46箱出土した。

37～44は越州窯系青磁である。37・38は碗で低い高台を削り出す。37は全軸で豊付に目跡がある。38は豊付を釉剥ぎし、内底に目跡がある。39は小碗で全軸、高台内に目跡がある。40は皿で貼付高台である。見込みに毛彫りによる双鶲鶴草花文を施し、全軸で外底に目跡が残る。41は合子の身で、全軸。貼付高台で豊付に目跡がある。内底に小物を入れて焼いた目跡がある。42は長沙窯の碗で、外面は露胎である。43は粗製壺類の底部で、外面は板起こしのまま未調整である。内面は露胎で、外面には白化粧を施す。44は粗製壺類の外耳で、縦に長い筒状をなし、褐彩を施す。

45～53は朝鮮半島産の無釉陶器である。45は口縁部片で、口唇部を上下に引き伸ばし、口縁内側に段を設ける。頭部外面に二段のヘラ描波状文を施す。外面から口縁内に自然軸がかかる。46は外面が斜格子の叩きで、断面カマボコ形の突線2条を貼付する。47は脛部屈曲部の小片で外面に沈線1条

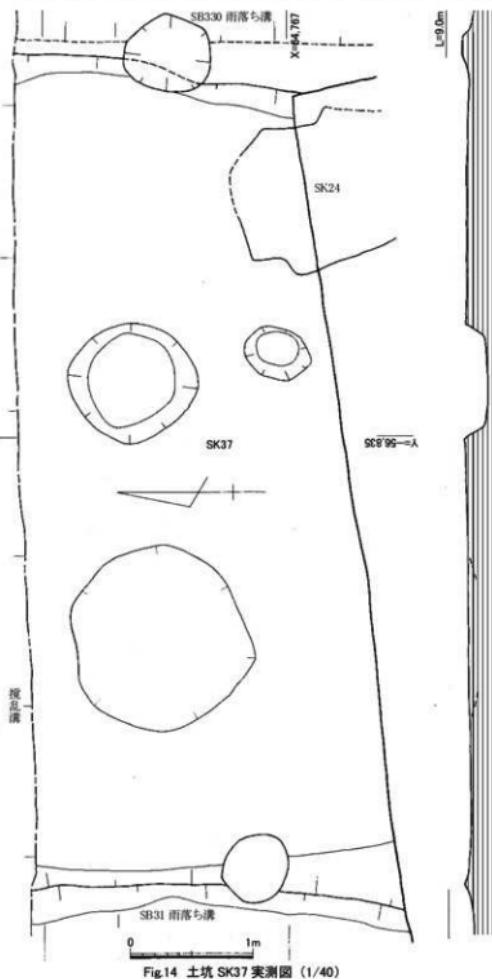


Fig.14 土坑SK37実測図 (1/40)

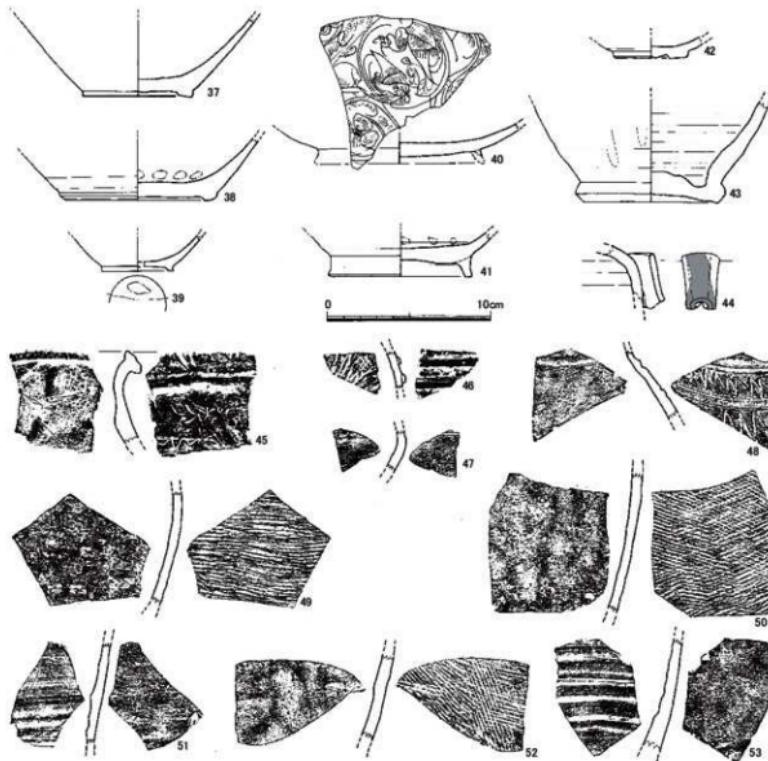


Fig.15 SK37 出土遺物実測図1 (1/3)

が巡る。48は肩部片で軟質である。外面に小さな突線一条と沈線二条を巡らし、上下2段に櫛波状文を施す。49～53は胴部片である。49・50・53は外面が平行叩きで、内面ナデ調整。外面が黒色をなす。他はいずれも内外ナデ調整である。

54～57は軒丸瓦の瓦当部分のみの残欠である。54は鴻臚館式(223a型式)で、他はいずれも小片であるが、やはり223型式の範疇とみられる。58～64は軒平瓦で、鴻臚館式(635型式)である。61・63・64は右端部の破片であるが、下外区右端は欠損している。

65は丸瓦であるが、焼成前に団の右上部分をヘラで丸く削っており、面戸瓦とみられる。凸面に焼成前に文字を書いたとみられる線刻がある。「徒」の文字にも似ているが、判然としない。この文字の上にも他の文字の一部とみられる横方向の線刻が認められる。類例が、SD15098(『鴻臚館跡19』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1175集 2012年 Fig.118-43)及びSK160(本書Fig.122-1298)で出土している。66は丸瓦である。

出土遺物からみて、第V期(10世紀後半～11世紀前半)の遺構と考えられる。

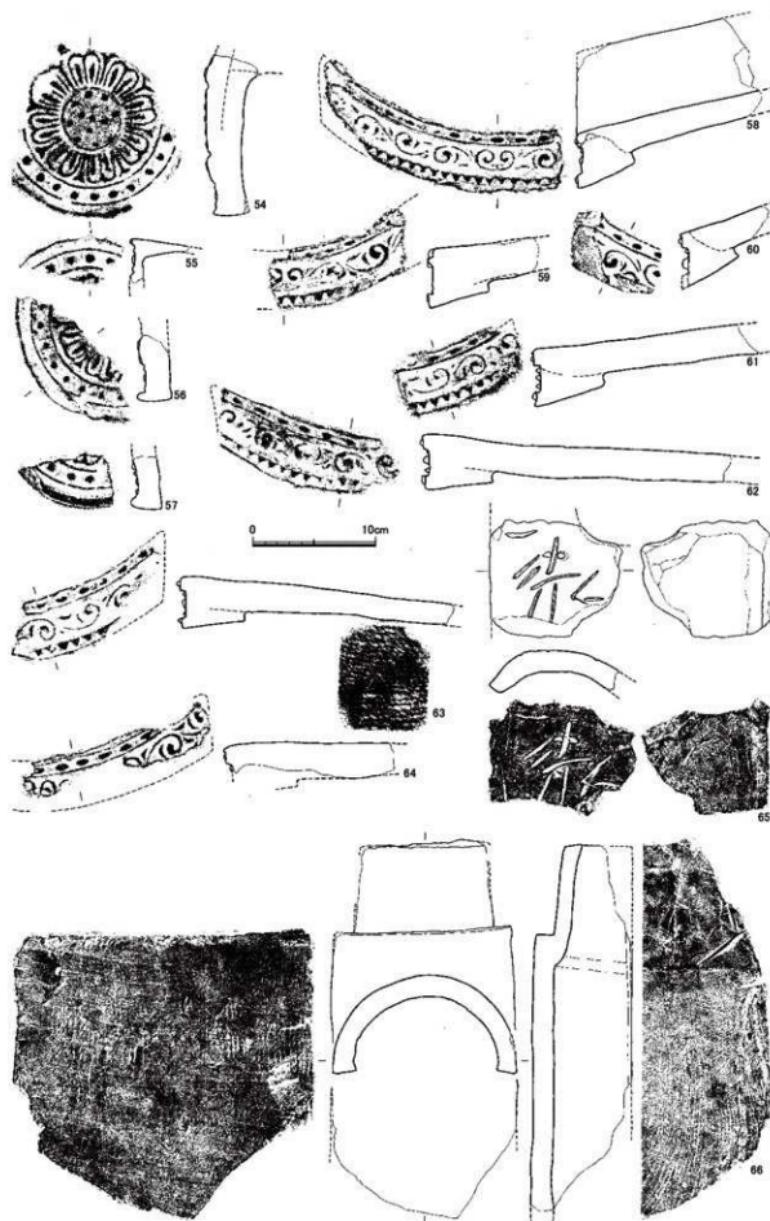


Fig.16 SK37 出土遺物実測図 2 (1/4)

### 土坑SK38 Fig.17、巻頭図版3

第4次調査区南西部に検出した土坑である。礎石建物SB31の基壇内に位置しており、建物より後出の遺構である。北側に別の土坑SK138が隣接しており、これを切っている。平面形は不整な円形を呈し、径1.6m～1.7mを測る。断面逆台形で、底面が皿状に窪む。深さは中央部で約30cmである。

越州窯系青磁を中心とする陶磁器と瓦が土坑周辺から投げ入れられた状態で多量に出土した。青磁の器種は碗と皿が主体を占め、一部に水注と蓋があるが、いずれも完形に近く、100個体前後がある。一部を除き、二次的に火を受けて変色・変質している。また、重ね焼きの目土がそのまま残り、使用痕が認められないこと、器形・製作技法が類似しており同一窯の製品と考えられることなどからみて、交易品として持ち込まれたものが、火災等の事故により被災して一括廃棄されたと考えることができよう。

SK38は出土状況を型取りし、平成25年現在は遺構覆屋施設の『鴻臚館跡展示館』内で展示している。

### SK38出土遺物 Fig.18・19、Tab.7、巻頭図版3

土師器、須恵器、中国産陶磁器(邢窯系・景德鎮窯白磁、越州窯系・長沙窯系青磁)がコンテナ12箱、

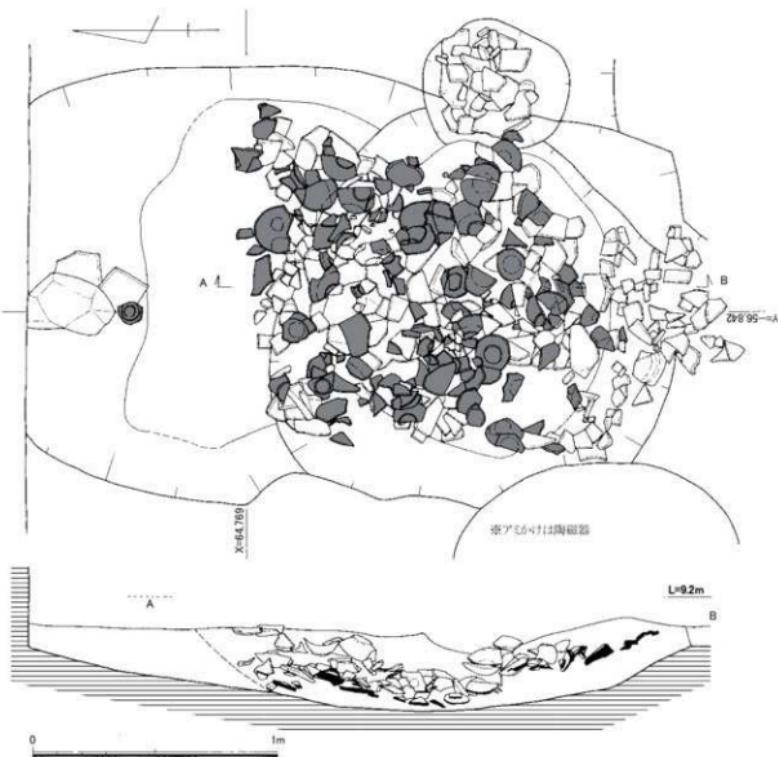


Fig.17 土坑SK38 実測図 (1/20)

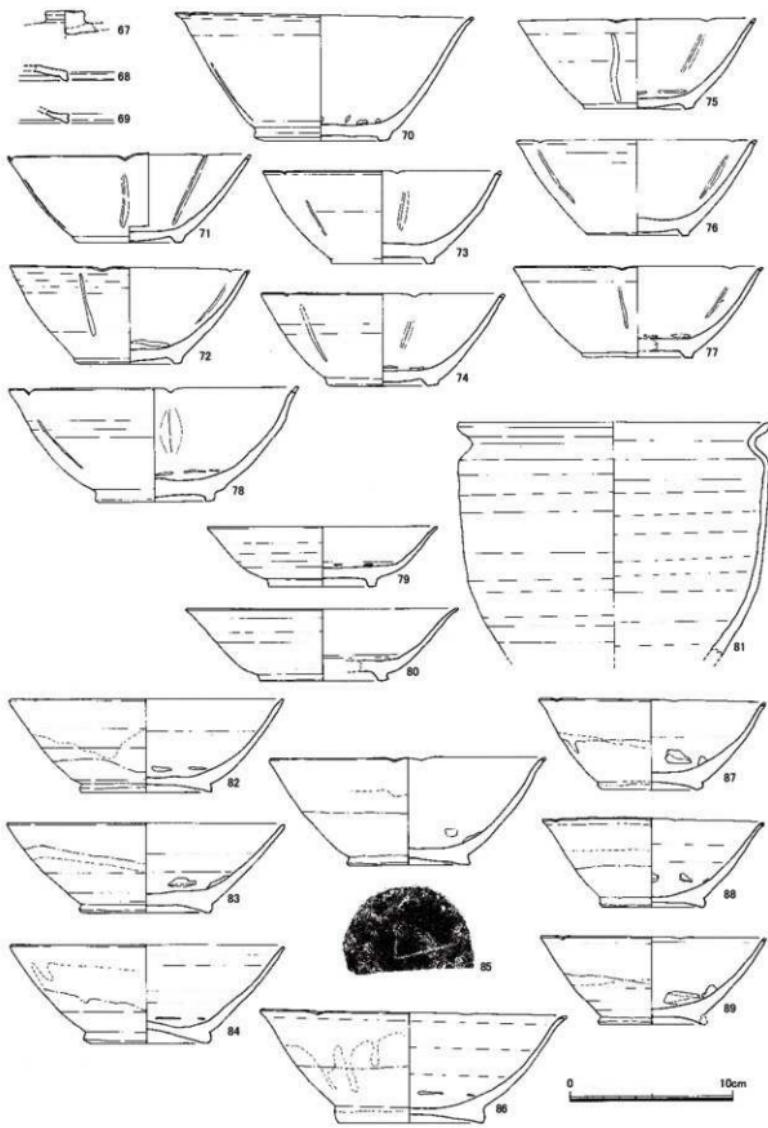


Fig.18 SK38出土遺物実測図 1 (1/3)

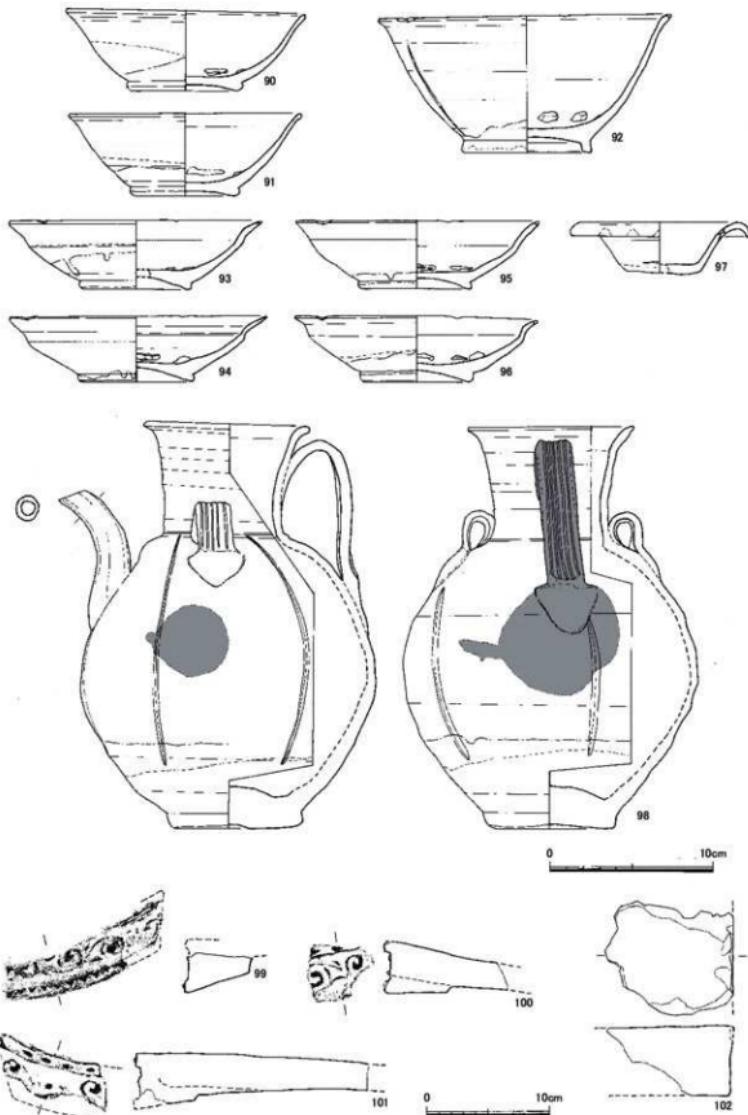


Fig.19 SK38出土遺物実測図2 (90~98は1/3、他は1/4)

瓦が12箱出土した。越州窯系青磁は代表例を図示するに留め、他は法量表(194ページ)に示した。

67~69は須恵器蓋で、67は扁平な宝珠状鉢がつき、68~69は口唇部が下方へ小さく突出する。

70~98は越州窯系青磁である。70は大振りの碗で口縁がやや外反し、小さい輪花と体部外面にヘラ押しによる縦の凹線を入れる。高台は低く削り出し、豊付外側と内底に目跡がある。71~77は器形、製作技法が極めて酷似する特徴を持つ一群である。削り出しの低い輪状高台で、口縁の5ヶ所に小さい刻みを入れ五輪花とし、その直下に外からのヘラ押しを加える。全軸で豊付の袖は削り、豊付と見込みにそれぞれ9個の目跡が残る。いずれの器にも使用した痕跡は認められない。78は他よりやや大型の碗で、口縁はやや外反するが、その他の特徴は71~77と同じである。79~80は皿で、見込みに浅い段が巡る。全軸で高台豊付の袖は搔き取る。見込みと豊付に目跡が残る。81は広口壺である。82~91は福建省産とみられる粗製の碗で、いずれも袖下に白化粧を施す。85の外底にはヘラ記号を入れる。92も同様であるが、貼付輪状高台で輪花口縁をなす。93~96も粗製の皿で袖下に白化粧を施す。輪花口縁とする。97は壺蓋である。底部糸切り離して、口縁に穿孔する。袖下に白化粧がある。98は福建省産水注でほぼ完存する。袖下に白化粧する。体部は瓜状で、注口、把手と双耳が付き、把手と胴中位に褐彩を施す。内外面に火ぶくれが多く、二次的に被熱する。

99~101は軒丸瓦で鴻臚館式(635型式)。102は素文磚の残欠である。

出土遺物からみて、9世紀後半~10世紀前半の遺構と考えられる。

#### 土坑SK40 Fig.20

第4次調査区西側中央部に位置する土坑である。特に東側~南側では削平のため遺構の残りが悪く平面プランが不明瞭であるが、隅丸方形を基調とするプランと考えられる。現状で南北3m前後、東西2.7m前後を測る。断面浅皿状をなし、東側が一段深く、最も深い部分で検出面から25cmが残る。

#### SK40出土遺物 Fig.21

土師器、須恵器、中国産陶磁器(邢窯系、景德鎮窯白磁、越州窯系青磁、陶器)、朝鮮半島産陶器、近世陶磁器がコンテナ1/2箱、瓦が29箱出土した。

103~105は白磁碗で、103は邢窯系、他は景德鎮窯の産。106~111は越州窯系青磁碗で106~109は輪花口縁。全軸で豊付は袖剥ぎする。112は越州窯系青磁皿。

113~114は福建省産とみられる粗製の越州窯系青磁四耳壺で、113は双耳壺の可能性もある。体外面上半から口縁内に施釉する。

115は福建省産褐釉陶器壺で全軸。117は福建省産無釉陶器捏ね鉢である。

116は朝鮮半島産の無釉陶器壺で軟質。外面に平行叩きを施し、ナデ調整する。

118~119は軒丸瓦で、119は鴻臚館式

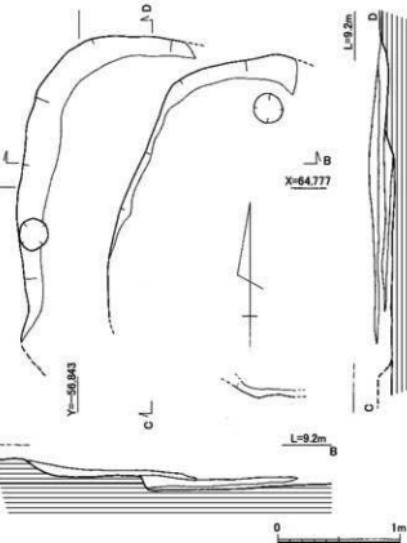


Fig.20 土坑SK40実測図(1/40)

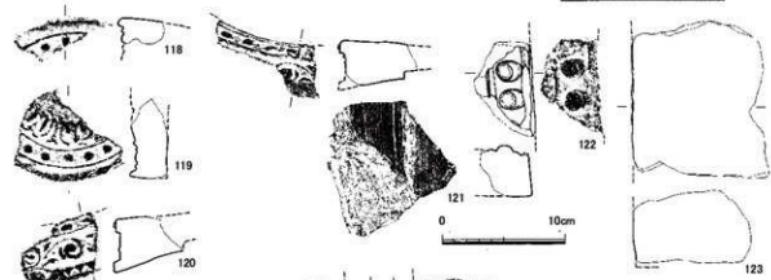
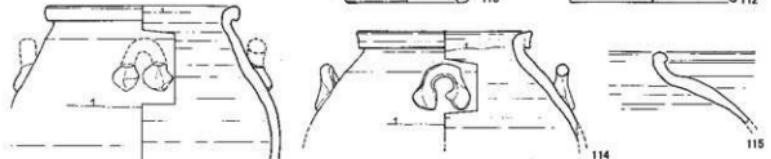
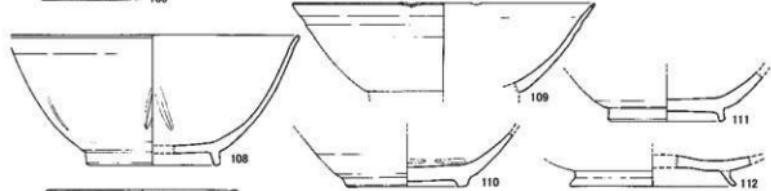
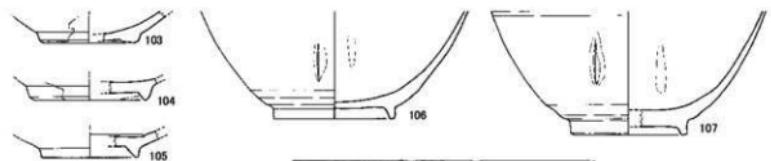


Fig.21 SK40 出土遺物実測図 (103 ~ 117 は 1/3、他は 1/4)

(223型式)。120・121は軒平瓦で、ともに鴻臚館式(635型式)か。122は鬼瓦の一部で、珠文が2個残る。123は素文磚の小片である。124は平瓦で、斜格子目と平行線に鳥足文状の線を加えた叩き目(5B)を施す。瓦の幅は約27cm。

一部近世遺物が混入するが、第V期(10世紀後半～11世紀前半)の遺構か。

#### 土坑SK135 Fig.22

第5次調査時に補足調査を行った遺構で、第4次調査区の北西部に位置する。南館第III期礎石建物SB31の礎石据付穴を切る土坑である。擾乱坑や削平により大部分が消失するが、楕円形プランをなす。平面規模は不明で、深さ20cm弱が残る。浅い土坑である。

#### SK135出土遺物 Fig.23

土師器、須恵器、中国産陶磁器(景德鎮窯白磁、越州窯系青磁、陶器)、瓦がコンテナ4箱出土。

125は土師器椀である。高台は細く高い。全体に磨滅が著しい。

126～132は越州窯系青磁である。126～129は碗。

126は平底で内外底に目跡が付く。127は低い輪状高台で疊付は釉剥ぎする。見込みと疊付に目跡がある。128も輪状高台で、高台内側に再削りを施す。体外面下半から外底は露胎。129は輪花口縁となる。細身の輪状高台で、全軸で疊付を釉剥ぎし目跡が付く。見込みにも目跡がある。130は皿で、全軸で疊付は釉剥ぎする。131は脚付坏で、高い高台を貼付する。全軸で、外底に目跡が付く。132は鉢か。全軸で疊付の釉は剥ぎ取る。見込みと疊付に目跡が付く。底部は粗砂粒を含む土を使用しており、(図にアミで示した部分)特異な成形である。133は粗製の大振りの蓋と考えられる。天井部に沈線3条以上を巡らす。外面のみ施釉しており、口縁外端から内面は露胎である。口縁端部に目跡が付く。

第V期(10世紀後半～11世紀前半)の遺構であろう。

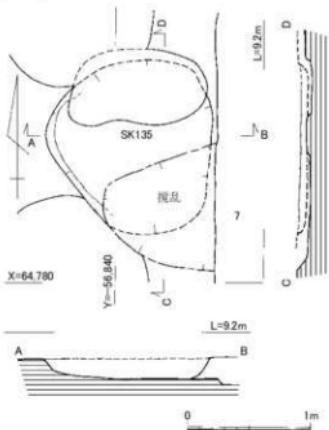


Fig.22 土坑 SK135 実測図 (1/40)

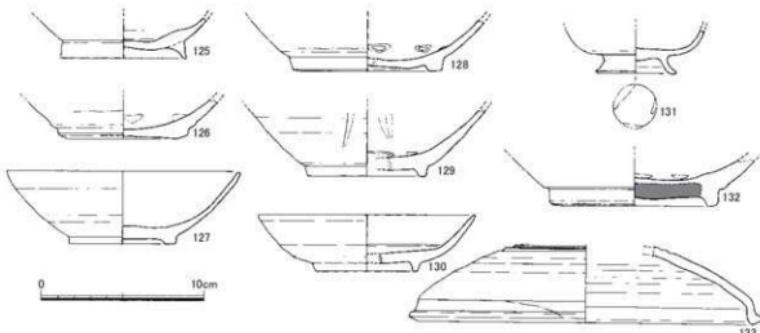


Fig.23 SK135 出土遺物実測図 (1/3)

### 土坑 SK147・148 Fig.24

第5次調査時に補足調査を行った遺構で、第4次調査区の中央西寄りに位置する。礎石建物SB31に重複する位置で二つの土坑が切り合っており、SB31→SK148→SK147の順に新しい。中央部や縁辺部に擾乱坑が切り込んでおり、残りはよくない。遺構の露出展示のため完掘していない。

SK147は、南北1.5m、東西1.45m程度の隅丸方形プランか。浅い底みで、深さ10cm以下である。

SK148は北半の大部分を擾乱坑が占める。礎石建物SB31の礎石据付穴を破壊しており、東側は基石積みに接するところまで掘削を行っている。隅丸方形プランで、南北長2.7m、東西長2.8m。底面が西側へ偏った逆台形断面で、深さ50cmである。

### SK147出土遺物 Fig.25・26

土師器、須恵器、中国産陶磁器(邢窯系・景德鎮窯白磁、越州窯系青磁、陶器)、朝鮮半島産陶器、近世陶磁器がコンテナ3箱、瓦が1箱出土した。

134は土師器壺で底部ヘラ切り離し。復元口径10.2cm、器高1.6cm。135は土師器椀の底部片で、高い高台が付く。底部ヘラ切り離して、高台は横ナデ調整。136は須恵器もしくは朝鮮半島産無釉陶器の壺

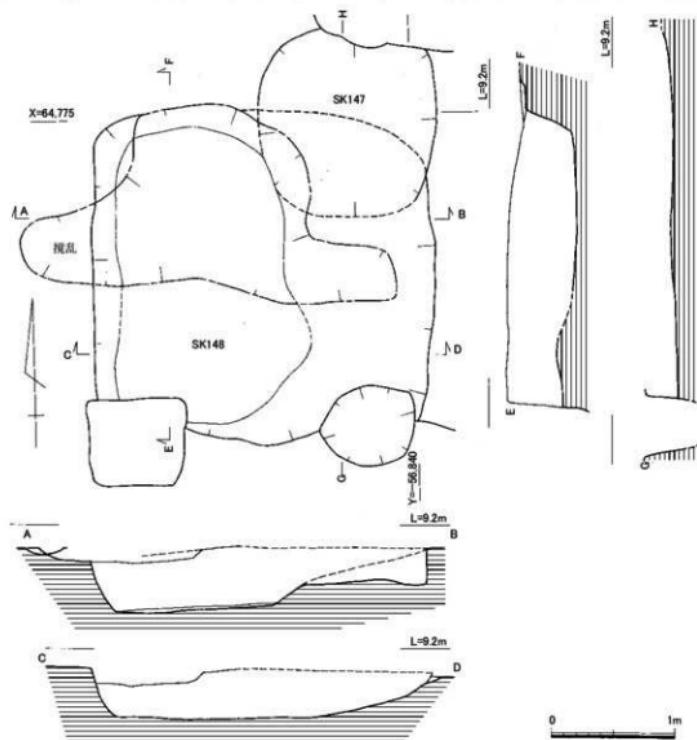


Fig.24 土坑 SK147・148 実測図 (1/40)

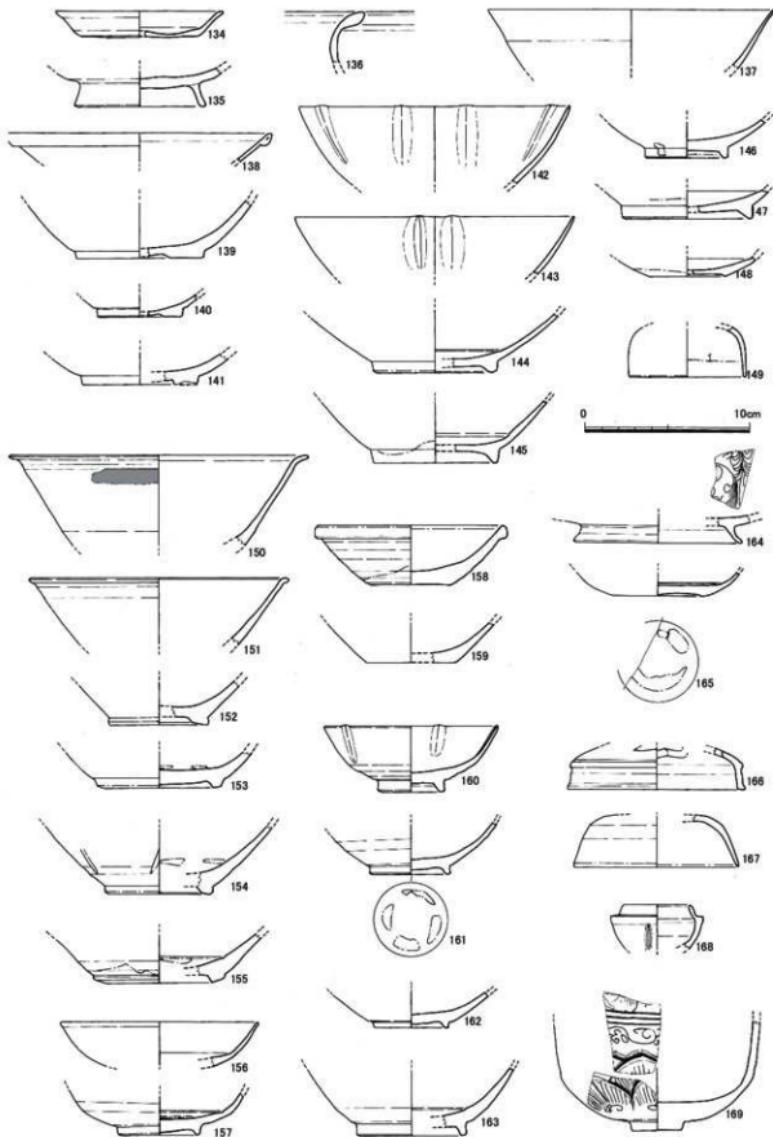


Fig.25 SK147 出土遺物実測図1 (1/3)

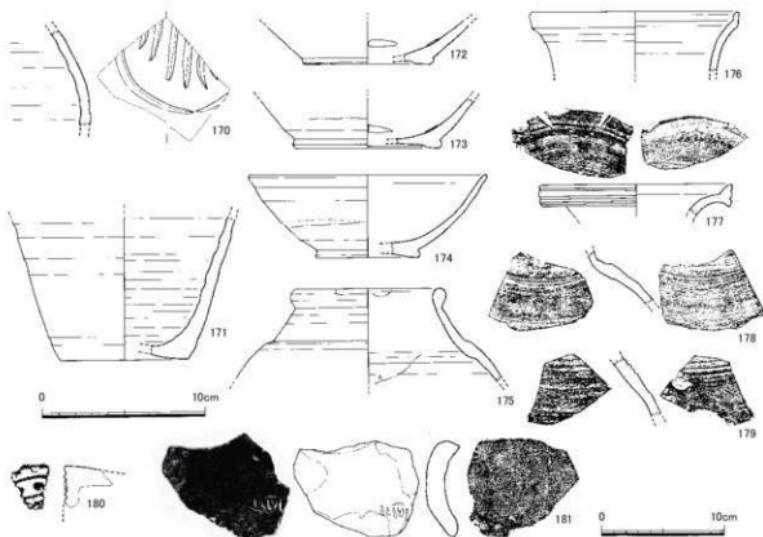


Fig.26 SK147出土遺物実測図2(170~179は1/3、他は1/4)

の口縁部小片で、口縁端部が肥厚する。横ナデ調整。

137~149は白磁である。138~141は邢窯系の碗で、玉縁口縁、蛇の目高台である。139は全面に施釉し、豊付を釉剥ぎ、他は体外面下半から外底は露胎。137・142~149は景德鎮窯白磁で、147までは碗で、体外面下半から外底は露胎である。142は外側からヘラ押しし、八輪花とする。143も輪花口縁だが数は不明。144~147は底部片で、断面三角形高台の内側に円形の黒~褐色の窯具痕が付く。148は平底皿。体外面下半から外底は露胎で、外底の窪みの中に円形の窯具痕が付く。149は壺蓋である。全面施釉し、口縁内面から端部は釉剥ぎする。

150~175は越州窯系青磁である。150~155は碗で、低い輪状高台が付く。155以外は全釉で豊付の釉を剥ぎ取る。150の外面には重ね焼きの痕跡が付く。153~155は見込みに目跡が付く。また154は輪花口縁となる。156~157は皿で、全釉である。157は豊付を釉剥ぎし、見込みに目跡が付く。158~159は壺。158は厚手で、半釉、口縁端部の釉を搔き取る。159は全釉で底部外縁に目跡がつく。160~163は小碗である。160はヘラ押して輪花とする。全釉で豊付の釉を剥ぎ、見込みに目跡が残る。161~163は全釉で、いずれも外底に目跡が付く。164は皿で、内面に毛彫りの花文を施す。細く高い高台を貼り付ける。165は皿、全面に施釉し、外底に目跡が付く。161~165は北宋前期の製品である。166は蓋で、透孔があるが形は不明。全釉で口縁端部に目跡が付く。167も蓋で、全面施釉し口縁端部の釉は搔き取る。168は合子の身で体部外面にヘラ押しによる縦の窪みをつける。全釉で受け部に目跡がある。169は壺とみられる。小さな円盤状の高台が付くが、座りが悪く台座と組み合わせて使用したと考えられる。全面施釉で、高台脇に熔着痕が認められる。体部外面に片切り彫りと毛彫りによる蓮弁文を施す。170は壺の体部片で、外面に片切り彫りで施す。両面に釉がかかる。171は壺類の底部で、全面施釉。172~174は釉下に白化粧を施す粗製の青磁碗で、体部下半から外底は露胎である。175は粗製壺の口縁部

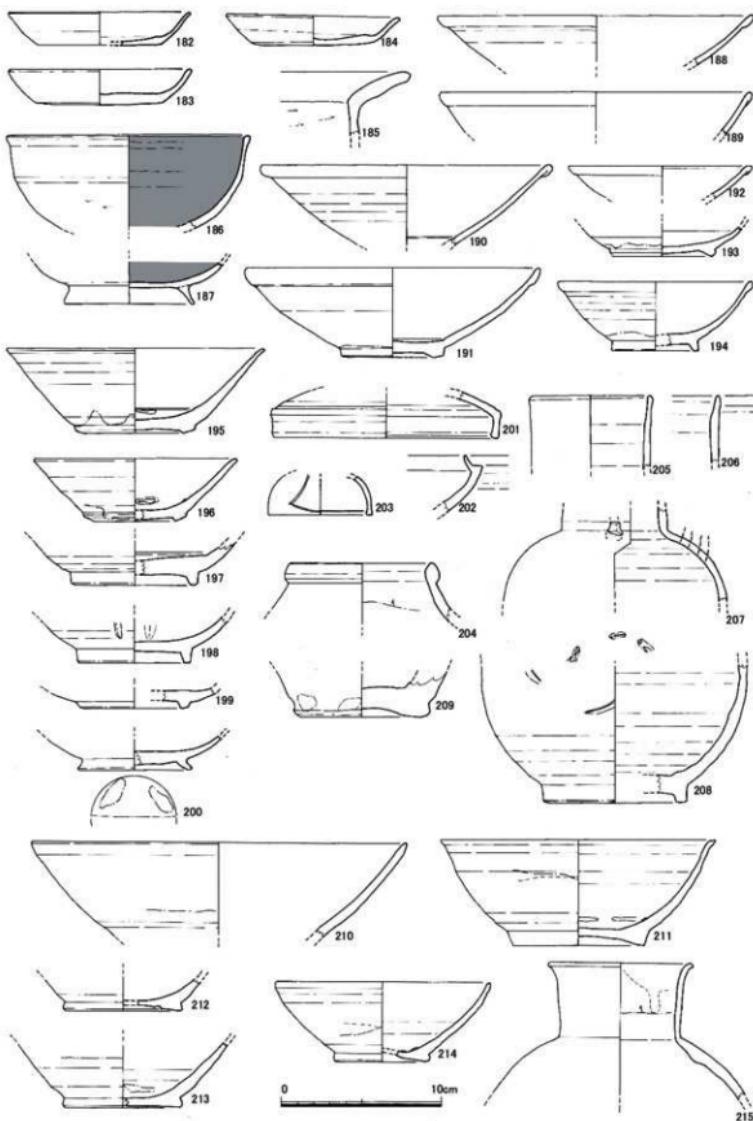


Fig27 SK148 出土遺物実測図1 (1/3)

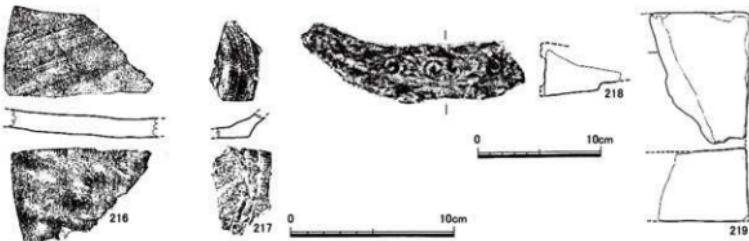


Fig.28 SK148 出土遺物実測図2 (216・217は1/3、他は1/4)

で、口縁内面から外面に施釉する。216は福建省産無釉陶器塗である。

177～179は朝鮮半島産の無釉陶器である。177は口縁部片で、口縁端部を広げて3条の浅い沈線をまわす。横ナデ調整。178は外面に浅い沈線3条が巡り、内外面に黒色塗料を塗る。178と179は胎土がアズキ色に発色する。

180は軒丸瓦の極小片である。181は面戸瓦で、凸面にヘラによる刻みがある。何らかの記号か。

僅かに近世陶器が混入しているが、10世紀後半～11世紀前半の遺構とみられる。

#### S K 1 4 8 出土遺物 Fig.27・28

土師器、須恵器、中国産陶磁器（景德鎮窯白磁、越州窯系・長沙窯系青磁、陶器）、朝鮮半島産陶器、近世陶磁器がコンテナ1.5箱、瓦がコンテナ10箱出土した。

182～184は土師器壺で底部ヘラ切り。口径は順に11.4cm、11.4cm、10.8cmを測る。185は土師器甕の口縁部片である。186・187は黒色土器A類碗である。内面に幅の広いヘラミガキを雜に施す。

188～194は景德鎮窯産とみられる白磁碗である。いずれも玉縁口縁をなし、輪状の高台を削り出す。体外面下半から外底は露胎となる。

195～208は浙江省産精製の越州窯系青磁である。195～198は碗で、198は輪花口縁であろう。195・196は体外面下半から外底は露胎、197・198は全釉で疊付の釉を剥ぎ取る。195・197は見込みに白土目が残る。199は皿で、全釉。疊付を釉剥ぎし、見込みに細長い目跡がつく。200は皿で、高台の内側に目跡が残る北宋前期の製品である。201は合子の蓋、202は合子の身である。201は口縁端部、202は受け部に目跡が残る。203は青白磁の蓋である。球形の体部で、外面に線彫の蓮弁文を入れる。口縁は短く内側に折り返し、口縁端部から内側は露胎とする。204は壺で、口縁の内側まで施釉する。205～207は水注である。205・206の口縁部は直立し、全面に施釉する。207は外耳の一部が残る。内外に施釉する。208は壺で、外面に片切彫りで施文する。内底に白土目が付いており、小物を器内に入れて焼成したものと考えられる。209は褐釉陶器であろうか。底部の小片で、底部脇に指押さえ痕が残る。全釉で、接地する部分に白色の繊維状のものが付着する。

210～215は福建省産の粗製越州窯系青磁で、釉下に白化粧を施す。210～214は碗で、212は外底に再削りを加えて蛇の目高台風にする。211・214は見込みに白土目が残る。215は水注で、口縁内の途中まで施釉する。

216・217は朝鮮半島産の無釉陶器の小片で、内外面ともナデ調整である。

218は軒平瓦で、残りが悪いが鴻臚館式(635型式)か。219は素文磚の小片である。

遺構の切り合いからSK147よりSK148が古いが、ともに第V期(10世紀後半～11世紀前半)の範疇におさまろう。